

北九州市立大学 地域戦略研究所  
2015 年度 地域課題研究

# 北九州における集客イベントの効果と展望 (2)

2016 年 3 月

北九州市立大学 地域戦略研究所



## 目 次

はじめに .....	1
ギラヴァンツ北九州の2015年スタジアム観戦者の現状分析 北九州市立大学 地域戦略研究所 准教授 南 博 .....	3
2016年シーズン開幕直後のギラヴァンツ北九州に対する市民意識 北九州市立大学 地域戦略研究所 准教授 南 博 .....	19
[活動記録]	
「北九州スタジアムを拠点とした魅力あるまちづくりシンポジウム」開催記録 .....	29

※ 北九州市立大学地域戦略研究所「地域課題研究」とは

北九州市立大学地域戦略研究所が、北九州地域の抱える課題等について調査研究し、それに基づいた政策提言等を行うことによって地域貢献を行う事業です。



## はじめに

北九州市立大学 地域戦略研究所 准教授 南 博

北九州市立大学地域戦略研究所（2015年11月に都市政策研究所を改組）では、北九州市および周辺地域の社会・経済の活性化にスポーツ及び各種集客イベントが重要な役割を果たす可能性があることに着目し、2008年度から地域課題研究<sup>1)</sup>の一環として関連する調査研究および地域貢献活動の実践に取り組んでいる（表1）。

表1 北九州市立大学地域戦略研究所（旧・都市政策研究所）の地域課題研究における「スポーツおよび各種集客イベント等を活かしたまちづくり」関連の取り組み

年度	論文等のタイトル
2008	・プロサッカーチームが北九州市に与える経済効果に関する研究
2009	<b>スポーツを通じた地域活性化に関する基礎的研究</b> ・シンポジウム「スポーツを通じた北九州地域の活性化」 ・Jリーグチームと大学生の連携に関する研究 ―学生の主体性と活動の継続性を生み出すための二つの鍵― ・Jリーグ加盟当初のギラヴァンツ北九州に関する市民意識分析 ・総合型地域スポーツクラブ事業の現状と課題
2010	<b>プロスポーツにおける集客戦略に関する研究</b> ・イベント「Jリーグでまちをもっと面白くする！」開催記録 ・[参考資料] Jリーグ加盟1年目におけるギラヴァンツ北九州のスタジアム観戦者分析
2011	<b>ギラヴァンツ北九州の社会的・経済的效果に関する研究</b> ・イベント「スポーツでもっと幸せな街へ。ギラヴァンツ北九州激励会」開催記録 ・Jリーグ加盟3年目を迎えるギラヴァンツ北九州に関する市民意識分析 ・[参考資料] 2011年におけるギラヴァンツ北九州のスタジアム観戦者像
2012	<b>北九州における「集客」の現状と課題～ギラヴァンツ北九州、B-1 グランプリ in 北九州～</b> ・2012年のギラヴァンツ北九州のスタジアム観戦者の意識と特性 ・2013年シーズン当初のギラヴァンツ北九州に対する市民意識調査速報 ・北九州市立中央図書館でのギラヴァンツ北九州紹介展示について ・([参考資料] B-1 グランプリ in 北九州への来場者の評価および開催に伴う経済波及効果に関する研究)
2013	<b>北九州におけるスポーツを活かしたまちづくりの課題と展望</b> ・2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に関する北九州市民の意識 ・地域スポーツを対象としたメディアによる地域振興とその課題 ・Jリーグクラブの資料アーカイブの意義と課題～愛媛プロスポーツアーカイブズの実践を踏まえて～ ・[参考資料] 集客低迷期のプロスポーツクラブのスタジアム観戦者実態と課題 ～2013年ギラヴァンツ北九州スタジアム観戦者調査結果から～ ・[活動記録]「北九州市立大学都市政策研究所 ギラヴァンツ北九州アーカイブ」の開設 ・[活動記録] 北九州市立中央図書館等との連携によるギラヴァンツ北九州関連情報発信等
2014	<b>北九州における集客イベントの効果と展望</b> ・北九州マラソン2014開催に伴う経済波及効果 ・[参考資料]「全国餃子祭り in 北九州」に対する来場者評価および開催に伴う経済波及効果 ・2015年シーズン開幕直前のギラヴァンツ北九州に対する市民意識 ・ギラヴァンツ北九州の2014年スタジアム観戦者の現状分析 ・スポーツのキャンプ等誘致によるスポーツ文化普及・シティブロモーションの可能性とメディア対応のあり方
2015	<b>北九州における集客イベントの効果と展望（2）</b> ・ギラヴァンツ北九州の2015年スタジアム観戦者の現状分析 ・2016年シーズン開幕直後のギラヴァンツ北九州に対する市民意識 ・[活動記録]「北九州スタジアムを拠点とした魅力あるまちづくりシンポジウム」開催記録

2015年度においても、これらを継続する形で、2014年度と同様に「北九州における集客イベントの効果と展望」をテーマに地域課題研究に取り組んだ。本冊子は、その成果をとりまとめたものである。

2015年度報告は、2つ調査研究論文と、1つの活動記録で構成している。

調査研究論文は、サッカーJリーグのギラヴァンツ北九州について、スタジアム観戦者に対するアンケート、およびギラヴァンツ北九州に関心の無い市民も含めた一般市民に対するアンケートをそれぞれ実施し、分析したものである。

活動記録は、2015年8月16日(日)15:30~17:00に北九州国際会議場メインホール(北九州市小倉北区)で主催した「北九州スタジアムを拠点とした魅力あるまちづくりシンポジウム」の開催記録である。このシンポジウムはJR小倉駅新幹線口そばに建設中の北九州スタジアム(2017年供用開始)が北九州のまちに「にぎわいと活力」をもたらすことが期待されている一方で、スタジアムがその機能を存分に発揮するためには、市民、企業・団体、行政など地域が一体となって様々な取り組みを行っていくことが必要であるとの問題意識に立ち、北九州スタジアムを拠点として北九州市がますます「魅力あるまち」となるよう、スタジアムへの期待や課題、今後のまちづくりにおいて取り組むべき方策等について議論を深めることを目的として開催した。北九州市立大学都市政策研究所(当時)が主催し、共催は北九州市、後援は北九州商工会議所、北九州スタジアム応援団、(株)ウインドシップ北九州であり、当日は約300人の方にご参加いただいた。そのシンポジウムの発言記録等を収録している。

なお、ここで示す他にも、地域貢献活動の実践として、2014年3月に開設した「北九州市立大学ギラヴァンツ北九州アーカイブ」における関連資料の収集・展示(市民、学生に公開)、また、北九州市およびギラヴァンツ北九州後援会(事務局:北九州商工会議所)と共に設置している「ギラヴァンツ北九州を支援する市民会議」を通じた諸活動についても、2015年度において継続的に取り組んだ。

「北九州におけるスポーツや各種集客イベントを活かしたまちづくりの課題と展望」は極めて多岐にわたるテーマであるため、北九州市立大学地域戦略研究所では今後も継続的に関連する研究や実践活動に取り組み、北九州都市圏の地域社会・地域経済の活性化へと貢献していく所存である。

#### 〔注〕

- 1) ここでいう「地域課題研究」とは、北九州市立大学地域戦略研究所が、北九州地域の抱える課題等について調査研究し、それに基づいた政策提言等を行うことによって地域貢献を行う事業を指す。

## ギラヴァンツ北九州の2015年スタジアム観戦者の現状分析

北九州市立大学 地域戦略研究所 准教授 南 博

### I はじめに

#### 1 研究の背景と目的

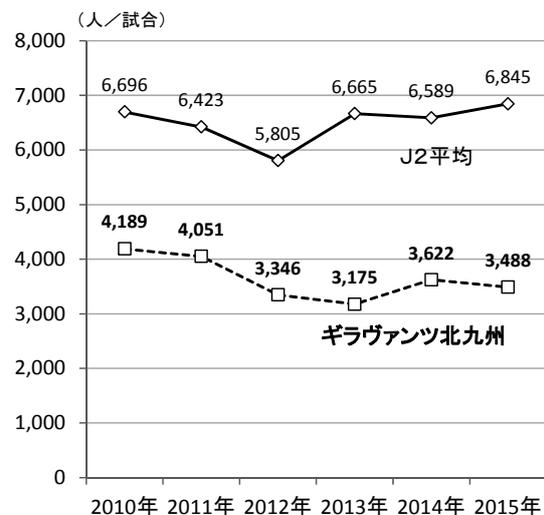
Jリーグに所属するギラヴァンツ北九州の主催試合のスタジアム観戦者数(入場者数)は2010年のJリーグ加盟以降伸び悩んでおり、低水準で推移している。一試合あたり平均入場者数については、2014年には初めて前年を上回ったが、2015年には再び減少に転じ、3,488人とどまっている(図1)。ホームスタジアムの北九州市立本城陸上競技場の収容定員が10,202人と少ないこと等も要因だがJ2平均を大きく下回る状況が続き、J1・J2に所属する40クラブの中で最少レベルにあり、2015年においてはカテゴリーが下のJ3のクラブの長野、山口、町田も下回る数となっている(表1)。入場者数が少ないことはクラブの安定的な経営に大きな影響を与え、またギラヴァンツ北九州に期待される社会的効果の十分な発揮を阻害する要因とも成りうる。

スタジアム観戦者数の増加策を検討するにあたっては多角的な検討が必要であるが、基礎データの一つとして現在のスタジアム観戦者の実態や意識を把握することは重要である。北九州市立大学においては、2010年以降、継続してギラヴァンツ北九州のスタジアム観戦者の実態や意識について基礎的な分析と考察を行ってきている。2015年においても同様の研究を行い、(株)ギラヴァンツ北九州や北九州市役所、その他関係機関や市民に情報提供することを通じ、今後の観戦者増加策に向けた地域全体の検討に際しての基礎的な検討材料を得ることを本研究の目的とする。

#### 2 研究方法

南(2015)、南(2014)、南(2013)、南(2012)、南(2011)と同様、ギラヴァンツ北九州の主催試合においてスタジアム観戦者に対するアンケート調査を実施し、分析を行う。調査は、公益社団法人日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)が全Jクラブを対象に毎年行う「スタジアム観戦者調

査」の2015年分の実施にあたり、筆者が実査協力者(ギラヴァンツ北九州担当)として参画する機会に合わせ、独自の設問を追加する形で実施した。



(出典) J.LEAGUE Data Site を基に筆者作成

図1 ギラヴァンツの一試合平均入場者数推移

表1 2015年のJ2・J3一試合平均入場者数  
抜粋(平均入場者数の多い順)

リーグ	クラブ名	2015シーズン 一試合平均入場者数(人)
J2	C大阪	12,232
J2	札幌	11,960
J2	千葉	10,725
J2	磐田	10,041
J2	大宮	9,490
J2	福岡	8,692
J2	岡山	8,412
J2	大分	7,533
(中略)		
J2	水戸	4,816
J3	長野	4,733
J3	山口	4,367
J2	群馬	4,099
J2	愛媛	3,771
J3	町田	3,766
J2	讃岐	3,658
J2	北九州	3,488
J3	相模原	3,291
(以下略)		

(出典) J.LEAGUE Data Site を基に筆者作成

なお、当該調査結果のうちJ1・J2所属40クラブに対する共通設問については、日本プロサッカーリーグ（2016）で示されており、本稿では南（2015）などと同様、共通設問における主要な設問と北九州の独自設問の中から要点を絞って集計・考察を行う。また、経年比較の観点から、まとめ方等については南（2015）などを踏襲することとする。

## II 2015年スタジアム観戦者調査の実施概要

### 1 実施手法等

調査は2015年10月4日（日）に北九州市立本城陸上競技場で開催されたJ2公式戦「ギラヴァンツ北九州 対 横浜FC」のキックオフ前に、競技場の観客席において実施した。実施概要を表2に示す。調査方法・対象等については過年度と同様である。なお、調査にあたっては、可能な限り回答者の属性等に偏りが生じないよう無作為抽出に近い形となるように努めた。

過年度調査と比較するに際し留意すべき点としては、席種別の有効回収比率の違いが挙げられる（表3）。2015年は北九州市による招待事業や民間団体等による招待事業の入場者の多いバックスタンドB席において、キックオフ直前に着席する入場者が多かった。本調査は試合観戦の妨げにならないよう、調査票の配布はキックオフの20～30分前に終了し、キックオフ前には回収を完了するため、キックオフ直前の来場者に回答依頼を行うことはできない。そのため、実際の入場者数はB席の比率が高かったと推定されるが、調査票の有効回収比率としてはB席は29.7%にとどまり、2014年より10ポイント低下している。2013年以前と同程度の構成比率であるため、調査の有効性の面からは問題ないと考えるが、前年との比較の面では留意が必要である。

### 2 本研究の分析対象となる回答者について

有効回収数404について、「あなたはホームクラブ（ギラヴァンツ北九州）のファンですか。」という問に対する回答別の状況を見ると、ギラヴァンツ北九州の応援者は264サンプル（65.3%）であった（図2）。本研究は、南（2015）等の過年度研究と同様、ギラヴァンツ北九州を事例としてプロスポーツクラブの経営や地域による支援策の今後のあり方の検討に資する基礎的な分析

表2 2015年スタジアム観戦者調査実施概要

調査日時	2015年10月4日（日）12:00～14:00（回収終了）
調査場所	北九州市立本城陸上競技場（北九州市八幡西区）
対象試合概要	2015 J2リーグ第35節 ギラヴァンツ北九州 対 横浜FC 試合開始時間：14:03 入場者数：4,455人 天候：晴
調査方法	訪問留め置き法（事前抽出した座席に着座した観戦者に回答を依頼し、約30分後に再訪問して回収）
調査対象	スタジアムに観戦に訪れた11歳以上の観戦者個人。調査対象とする座席はスタジアム全ゾーンのうち、アウェイC席を除くゾーン。
配布回収概要	配布数428、有効回収数404（有効回収率94.4%） ※入場者の9.1%相当

表3 席種別回収状況の経年比較

調査年	回収数	S席	A席	B席	C席ホーム	C席アウェイ	不明
2010年	457	7.7%	51.9%	31.7%	8.3%	—	0.4%
2011年	453	4.4%	63.6%	13.2%	9.7%	6.6%	2.4%
2012年	571	7.0%	40.3%	30.5%	8.6%	12.1%	1.6%
2013年	422	6.9%	51.4%	32.7%	9.0%	—	0.0%
2014年	436	4.6%	39.9%	43.6%	11.0%	—	0.9%
2015年	404	10.6%	47.8%	29.7%	11.9%	—	0.0%

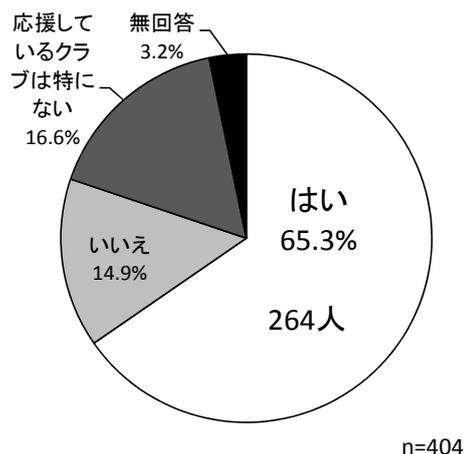


図2 応援するJクラブ

を行う視点を有している。そのため、ギラヴァンツ北九州の応援者の特性等を中心に把握することが最も重要となる。また、アウェイを応援する観戦者は試合ごとに大きく人数・属性等が変化する。そのため、本研究ではギラヴァンツ北九州応援者を対象とした分析を基本とし、設問によってはギラヴァンツ応援者に加え他の回答者も分析に加える方法を用いることとする。

### 3 回答者の基本属性

#### (1) 性別・年齢

ギラヴァンツ北九州応援者264サンプルの回答者（11歳以上の観戦者を対象）について性別・年齢を見たものを表4に示す。男性の方が多く、

表4 ギラヴァンツ応援者の性別・年齢

年齢		性別		合計
		男性	女性	
10代		17	1	18
		6.4%	0.4%	6.8%
20代		16	15	31
		6.1%	5.7%	11.7%
30代		44	16	60
		16.7%	6.1%	22.7%
40代		47	17	64
		17.8%	6.4%	24.2%
50代		36	15	51
		13.6%	5.7%	19.3%
60代		19	11	30
		7.2%	4.2%	11.4%
70代以上		5	5	10
		1.9%	1.9%	3.8%
無回答		0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%
合計		184	80	264
		69.7%	30.3%	100.0%

※構成比はn=264に対する比率

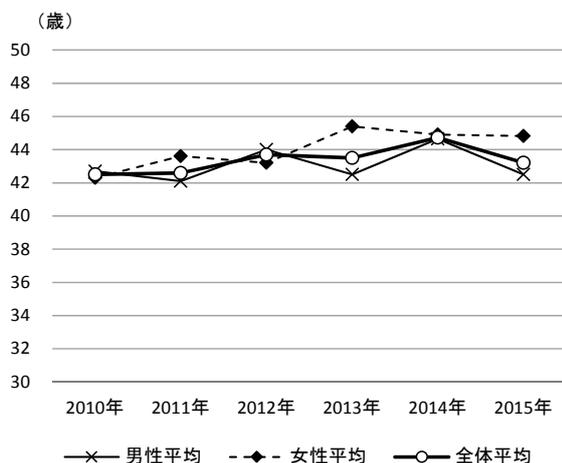


図3 ギラヴァンツ応援者の平均年齢の推移

年齢は30～50歳代が多い。

単純平均年齢を算出すると、男性は平均44.6歳、女性は平均44.9歳、男女計の平均44.7歳である。平均年齢の経年変化を図3に示す。

Jリーグに加盟した2010年以降、性別・年齢の傾向は変わっておらず、中高年男性が多い一方、若年女性は比較的少ない状況にある。

## (2) 居住地

ギラヴァンツ北九州応援者および全回答者(ギラヴァンツ北九州応援者を含む)の居住地を表5に示す。ギラヴァンツ北九州応援者の68.2%は北九州市内に居住しており、うち本城陸上競技場の所在地である八幡西区および隣接する若松区からの観戦者が多い。地理的に近い中間市・遠賀郡

表5 ギラヴァンツ応援者、全回答者の居住地

居住地	ファン種別	ギラヴァンツ応援者		回答者 合計 (ギラヴァンツ応援者含む)	
		回答者数	構成比	回答者数	構成比
北九州市		180	68.2%	239	59.2%
	門司区	15	5.7%	15	3.7%
	小倉北区	14	5.3%	20	5.0%
	小倉南区	20	7.6%	35	8.7%
	若松区	32	12.1%	43	10.6%
	八幡東区	8	3.0%	10	2.5%
	八幡西区	50	18.9%	59	14.6%
	戸畑区	11	4.2%	13	3.2%
	※区不明	30	11.4%	44	10.9%
中遠	中間市	6	2.3%	7	1.7%
	遠賀郡芦屋町	0	0.0%	1	0.2%
	遠賀郡遠賀町	0	0.0%	1	0.2%
	遠賀郡水巻町	5	1.9%	6	1.5%
	遠賀郡岡垣町	6	2.3%	7	1.7%
	遠賀郡(町不明)	3	1.1%	4	1.0%
直轄	直方市	4	1.5%	4	1.0%
	宮若市	0	0.0%	0	0.0%
	鞍手郡	0	0.0%	0	0.0%
京築	行橋市	6	2.3%	7	1.7%
	豊前市	0	0.0%	0	0.0%
	京都郡苅田町	3	1.1%	5	1.2%
	京都郡みやこ町	1	0.4%	1	0.2%
	築上郡	0	0.0%	0	0.0%
筑豊 (嘉飯、田川)	飯塚市	0	0.0%	1	0.2%
	嘉麻市	0	0.0%	0	0.0%
	田川市	0	0.0%	2	0.5%
	田川郡	1	0.4%	1	0.2%
宗像	宗像市	5	1.9%	5	1.2%
	福津市	2	0.8%	2	0.5%
福岡都市圏 (宗像以外)	福岡市	5	1.9%	14	3.5%
	その他の市	3	1.1%	6	1.5%
	その他の町	1	0.4%	2	0.5%
その他福岡県(筑後地方等)		1	0.4%	3	0.7%
山口県	下関市	19	7.2%	52	12.9%
	山陽小野田市	1	0.4%	3	0.7%
	宇部市	0	0.0%	3	0.7%
	防府市	0	0.0%	2	0.5%
	その他の市町村	1	0.4%	3	0.7%
北海道・東北		0	0.0%	0	0.0%
関東地方		3	1.1%	7	1.7%
東海地方		0	0.0%	2	0.5%
北信越地方		0	0.0%	0	0.0%
近畿地方		1	0.4%	1	0.2%
中四国地方(山口除く)		2	0.8%	4	1.0%
九州地方(福岡除く)		5	1.9%	7	1.7%
無回答		0	0.0%	2	0.5%
合計		264	100.0%	404	100.0%

地区の居住者も人口比を勘案すると多い。過年度同様、全般的に競技場に近い場所に居住する観戦者が多い一方、下関市、行橋市などからの観戦者も見られ、広域的な集客の広がりはある。

全回答者について見ても北九州市居住者が59.2%を占めている。2014年調査の70%台からは低下しているが、これは市内招待客の多いB席の回答者比率が2014年は高かったことに因るものと考えられる。なお、Jリーグの試合の特性上、アウェイサポーターの来場状況によって来場者全体の居住地の状況は大きく変化するため、全回答者の居住者比率については、本調査結果が2015シーズンの一般的な状況を示すものとは言えない。

### Ⅲ 2015年スタジアム観戦者調査の集計・考察

#### 1 ギラヴァンツ応援者の観戦行動特性

##### (1) Jリーグ試合のスタジアム観戦歴

ギラヴァンツ北九州の試合に限らず、Jリーグ（前身の日本サッカーリーグを含む。）の試合のスタジアム観戦歴を尋ねた結果を表6に示す。ギラヴァンツ北九州がJリーグに加盟した2010年およびそれ以前からスタジアム観戦歴のある回答者が58.3%いる一方、今シーズンから観戦している回答者が9.5%存在している。

##### (2) ギラヴァンツ北九州の応援歴

ギラヴァンツ北九州（前身のニューウェーブ北九州を含む）の応援年数を尋ねた結果を表7に示す。2015年が応援1年目とする回答者は17.4%となっており、新規応援者を比較的多く獲得していることがうかがえる。九州リーグ時代からの応援者は6.1%と少数派となっており、ギラヴァンツ北九州がJリーグ加盟した後に応援を始めた人が84.5%と多数を占めている。

##### (3) 2014年（調査前年）のスタジアム観戦試合数

調査前年の2014年シーズンのホーム試合（21試合。北九州市内で開催）とアウェイ試合（21試合。対戦相手の本拠地等で開催）のスタジアム観戦試合数を見た結果を図4に示す。

ホーム試合については、前年に「0試合」とする回答者が14.8%である。またホーム試合で最も多いのは「1～5試合」（25.4%）である一方、16試合以上観戦している人々も合計すると約30%おり、多様な観戦経験者によって構成されている。これは過年度調査と概ね同じ傾向である。

アウェイ試合については、0試合の回答及び無回答を合計すると過半数（62.5%）を占め、またアウェイ観戦のある回答者でも大半の31.1%は1～5試合となっている。アウェイ試合に多回数駆けつける特に熱心なサポーターが比較的少ないと言え、これも過年度調査と同じ傾向である。

なお、本設問は回数を自記する方式で尋ねており、単純平均を算出すると、2014年の観戦試合数はホーム9.9試合（2014年調査では前年10.3試合、2013年調査では前年9.9試合）、アウェイ1.8試合（2014年調査では前年1.5試合、2013年調査では前年1.5試合）となる。

表6 Jリーグの試合のスタジアム観戦歴

	回答者数	比率	※累計
1992年以前から（Jリーグ開幕前から）	25	9.5%	9.5%
1993～1995年頃から	26	9.8%	19.3%
1996～1998年頃から	14	5.3%	24.6%
1999～2002年頃から	13	4.9%	29.5%
2003～2006年頃から	18	6.8%	36.4%
2007～2010年頃から	58	22.0%	58.3%
2011～2014年頃から	65	24.6%	83.0%
今シーズンから（2015年～）	25	9.5%	92.4%
無回答	20	7.6%	
合計	264	100.0%	

表7 ギラヴァンツ北九州の応援歴

	回答者数	比率	(参考) ギラヴァンツの所属リーグ	
1年目	46	17.4%	84.5%	Jリーグ（J2）
2年目	31	11.7%		
3年目	32	12.1%		
4年目	40	15.2%		
5年目	42	15.9%		
6年目	32	12.1%		
7年目	11	4.2%		
8年目	8	3.0%	7.2%	JFL
9年目以上	16	6.1%	6.1%	九州リーグ
無回答	6	2.3%		
合計	264	100.0%		

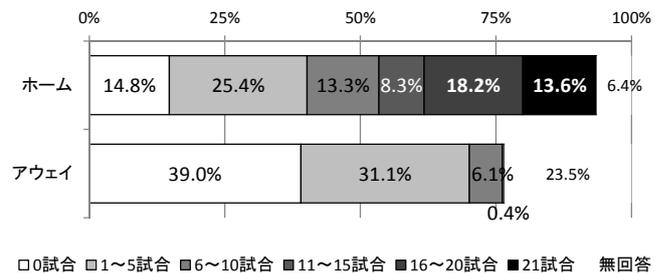


図4 2014年のギラヴァンツ試合観戦数

##### (4) 2015年のスタジアム観戦試合数

本調査の実施年である、Jリーグ加盟6年目の2015年シーズン（調査時点ではホーム17試合、アウェイ18試合の開催数）のスタジアム観戦試合数を見た結果を図5、図6に示す。

ホーム試合について最も多いのは調査対象時点がシーズン初観戦となる人々で、次いでシーズンの大半となる15～17試合となっており、二極分化した形になっている。南（2014）において指摘した「ライト層と、熱心にスタジアムに観戦に訪れるコア層が多く、その中間にあたる層が少ない特徴がある」と言え、この点がギラヴァンツの観戦者数が伸び悩む要因の可能性が「点」について、南（2015）では、2014年シーズンでは改善が図られ2014年に入場者数が増加した要因とな

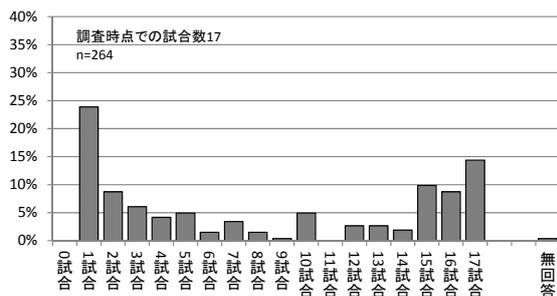


図5 2015年ギラヴァンツ試合観戦数（ホーム）

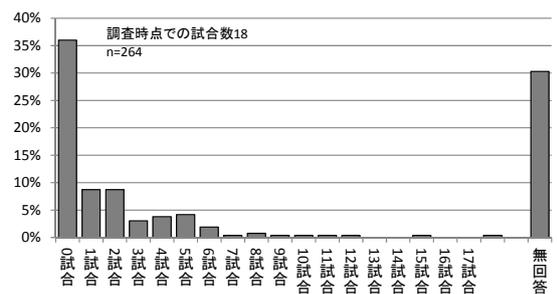


図6 2015年ギラヴァンツ試合観戦数（アウェイ）

ったと分析していたが、2015年シーズンにおいては再び「初観戦層と、ほぼ毎試合スタジアム観戦に訪れるコア層」に二分される状況となっていることがうかがえ、2015年シーズンの入場者数が減少した表れと考える。

アウェイ試合については0試合及び無回答の回答者が計70%近くを占めており、過年度調査と同様の傾向にある。アウェイ観戦に行く熱心なギラヴァンツ応援者は横ばい状態と推測できる。

### (5) スタジアム観戦の勧誘・被勧誘状況

ギラヴァンツ北九州応援者に対し、スタジアム観戦の勧誘（Jリーグ観戦に周囲の人を誘うかどうか）、被観戦勧誘（周囲の人からJリーグ観戦に誘われるかどうか）を尋ねた結果を図7、図8に示す。勧誘については、「よく誘う」は18.9%（前年17.7%）にとどまり、「時々誘う」を合わせると50%強にはなるが、観戦勧誘が活発とまでは言えない状況である。被観戦勧誘については、「あまり誘われない」と「まったく誘われない」の合計が59.5%（前年66%）を占めている。

## 2 調査対象試合における観戦状況

### (1) 観戦同行者

当日の試合を一緒に観戦に来た人数（回答者を含んだ数）は過年度調査と同様「2人」とする回

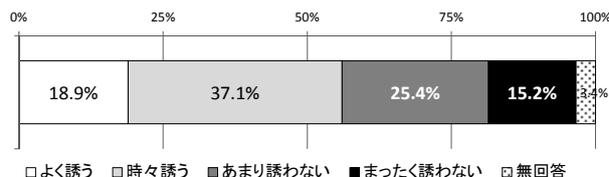


図7 周囲の人に対する観戦勧誘状況

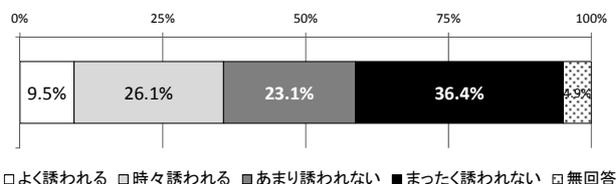


図8 周囲の人からの被観戦勧誘状況

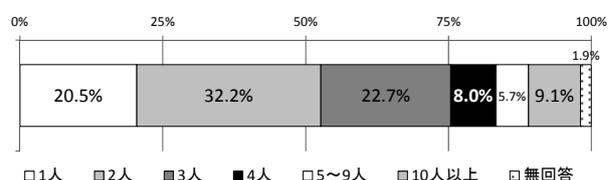


図9 調査対象試合を一緒に観戦に来た人数

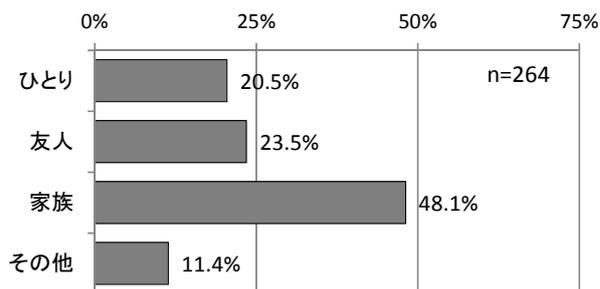


図10 一緒に観戦に来た人との関係

答が最も多い（図9）。次いで多いのは「3人」であり、過年度調査では「1人」の方が多かったがそれを上回る結果となっている。また2015年調査においては「10人以上」が9.1%と高い比率となっている。これは団体観戦が調査当日に多かったことを反映しており、実態を反映している結果と考える。いわゆる「組織的動員」によるものであり、ギラヴァンツの運営側の努力によるものであるが、一方で動員に因らない入場者数の伸び悩みを示す結果とも言えよう。

組織的動員が多いことは一緒に観戦に来た人との関係に関する問でも表れており、最も多いのが「家族」であることは過年度調査と同様であるが、2014年調査で2.9%だった「その他」が、2015年調査では11.4%にのぼっている（図10）。

## (2) 当該試合の観戦理由

調査対象となった試合の観戦理由を13項目に分類し、それぞれの度合いについて5段階評価で質問した結果を図11に示す。「大いにあてはまる」「ややあてはまる」という肯定的な回答が多いのは、「地元のクラブだから」、「好きなクラブを応援したいから」、「サッカー観戦が好きだから」等となっており、これら3項目については約80%が肯定的な回答をしている。これら上位の項目については、過年度調査と同様である。

一方、肯定的な回答が少ないのは「応援しているクラブの成績が良いから」、「周囲で盛んに話題になっているから」、「スタジアムでのイベント・グルメ企画が楽しそうだから」等となっている。地域でギラヴァンツが話題になることが少ないことや、観戦時における試合以外の楽しみ提供の企画力や広報力に課題があること等がうかがわれる。

なお、「応援しているクラブの成績が良いから」は毎年の調査時点におけるクラブの成績が色濃く反映されており、例えば2014年調査はJ2で4位であったことを反映して当該項目に「大いにあてはまる」とした回答は28.4%にのぼっていたが、2015年は12位であり3.4%となっている。2013年は17位であり2.8%であった。チームの成績も一部の観戦者のスタジアム観戦理由に影響を与えていると推測できる。

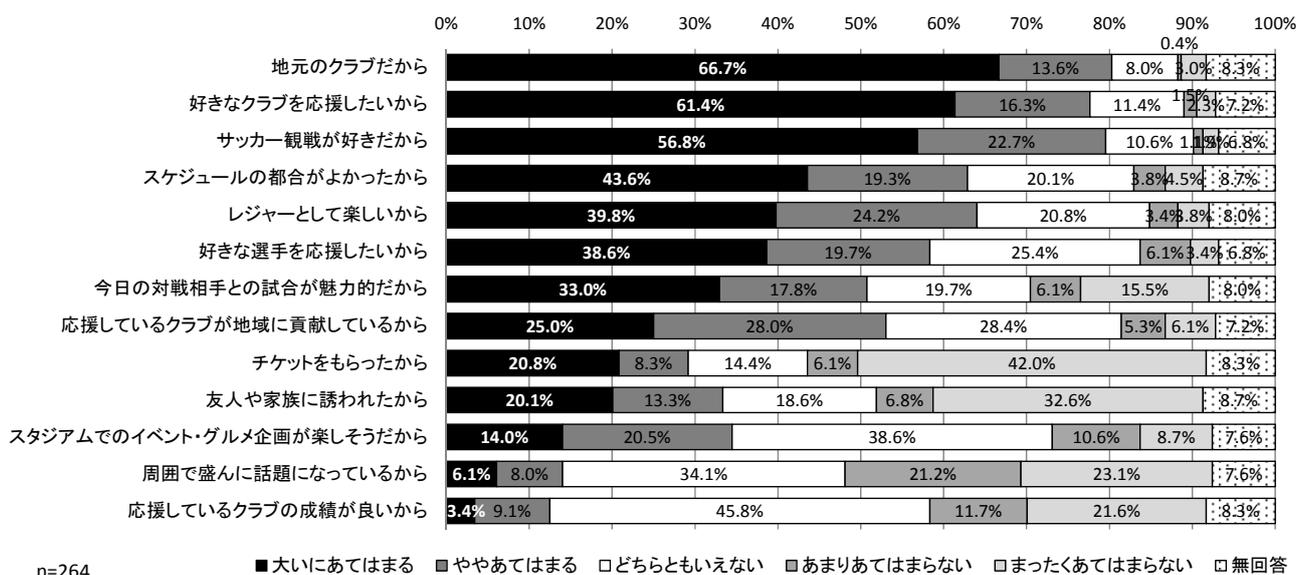
「チケットをもらったから」を肯定的理由に挙

げている回答者は13項目の中では相対的に少ないものの、「大いにあてはまる」に20.8%（前年27.5%）が回答しており、Jリーグの試合が「有料イベント」であることを勘案するとギラヴァンツ北九州の抱える課題を表している。本設問はJリーグ共通設問であり、日本プロサッカーリーグにおいて毎年40クラブ比較が行われているが、観戦理由として「チケットをもらったから」を肯定的に挙げる回答者について、北九州は毎年上位となっている。南（2015）などでも指摘しているが、こうした結果は、クラブによるスポンサー優待や行政・地域団体等による市民招待事業等が観戦者数増に対して有効に機能していることを表しているものの、クラブの自立的な経営成長に向けては再考が必要な重要課題である。

## (3) 当該試合の観戦チケット

調査対象試合のチケット入手方法を尋ねた結果を表8に示す。

最も多いのは「チケットをもらった」とする回答であり、34.8%を占める。南（2015）での指摘のように、もらったチケット（招待券）については、北九州市による市民招待事業（市政だよりによる公募、自治会招待など）、子ども夢パスおよび大学生招待（地元経済団体による招待事業）などが想定され、これらのは、行政や地域団体、スポンサー等からギラヴァンツ北九州にはチケット代が支払われていると考えられるため、クラ



n=264

図11 調査対象試合の観戦理由

ブとして無償で観戦者を入場させたものではないが、観戦者側の立場としては、「チケット代を支払わずに観戦した」と認識されているものであり、公平性の観点からも有料イベントとして望ましい状況とは言えない。前述のとおり、招待券事業は観戦者数増に寄与していると考えられるため事業実施の意義は大きいものの、リピーターとなる観戦者側に「お金を自分で支払って観戦する」意識を醸成していく必要がある。

次いで多いのは「シーズンチケットを購入した」で28.0%である。シーズンチケットは年間のホーム試合全てで利用できるチケットであり、熱心なサポーター層が購入するチケットである。

招待券利用者とシーズンチケット購入者で観戦者の2/3近くを占めており、一般的なスポーツ観戦で主流の手法と考えられる「コンビニ等で（前売り券を）購入」や、「スタジアムで（当日券を）購入」とする観戦者は、ギラヴァンツ北九州の応援者では少数派である。こうした傾向は過年度調査でも同様となっているが、2014年調査と比較すると、「コンビニ等で（前売り券を）購入」の比率は高まっており、自分でチケットを購入する人が増えている可能性はあるが、前述のとおり招待事業利用者からの調査票回収が十分得られなかったことも理由として考えられる。

### 3 観戦前後の行動

#### (1) スタジアム（本城）までの所要時間

ギラヴァンツ北九州応援者の北九州市立本城陸上競技場への所要時間（片道）を図12に示す。「15～29分」及び「30～44分」の回答者が多く、過年度調査と同様の傾向となっている。本設問については時間を自記式で回答いただいております、単純平均時間を算出すると43.3分であり、過年度調査とほぼ同じである（2014年調査42.7分、2013年調査43.5分）。こうした結果は、表5で示したように本城陸上競技場から比較的近い場所に居住している来場者が多い点と整合している。

#### (2) スタジアム（本城）までの交通手段

ギラヴァンツ応援者および他の観戦者の本城陸上競技場への交通手段について図13に示す。ギラヴァンツ応援者については67%が車利用であり、それ以外の選択肢は公共交通機関も含めいづれも10%未満となっている。

表8 調査対象試合のチケット入手方法

項目	比率 (n=264)	(参考) 前年調査
チケットをもらった	34.8%	42.0%
シーズンチケットを購入した	28.0%	27.0%
コンビニ等で当該試合分を事前購入（前売り券が中心）	18.2%	11.9%
コンビニで購入した	12.9%	7.2%
クラブ公式ホームページで購入した	0.8%	1.2%
Jリーグチケットで購入した	3.0%	1.2%
プレイガイド(ウェブサイト)で購入した	0.8%	0.9%
プレイガイド(店頭)で購入した	0.4%	1.4%
携帯電話WEBサイトで購入した	0.4%	0.0%
電話で購入した	0.0%	0.0%
スタジアムで購入した（当日券）	11.4%	9.0%
その他（スポンサー特典など）	4.2%	7.0%
無回答	3.4%	3.2%
合計	100.0%	100.0%

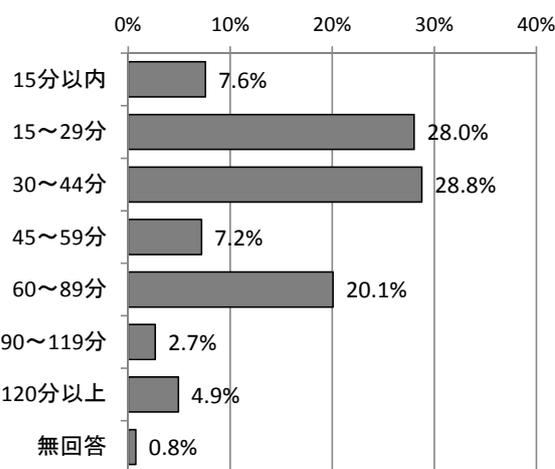


図12 スタジアム（本城）までの所要時間

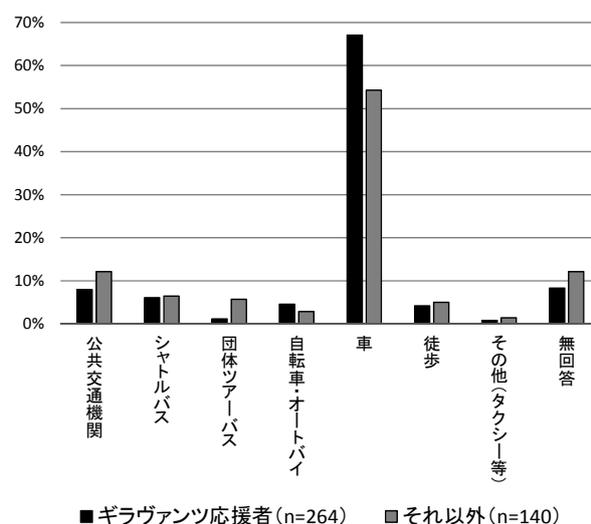


図13 スタジアム（本城）までの交通手段

なお、交通手段については過年度調査では北九州独自に別設問で行っていたが、車利用が60%台である点など、一致した結果となっている。

### (3) 観戦前後の経済活動

調査当日の試合観戦前あるいは観戦後、スタジアム以外の北九州市内において買い物、飲食、宿泊等の経済活動を行ったか（あるいは行う予定はあるか）尋ねた結果を図 14 に示す。

ギラヴァンツ北九州応援者の 43.9%（2014 年調査 48.4%、2013 年調査 40.4%）が経済活動を「行った・行う予定がある」と回答しており、試合観戦が北九州市内における様々な経済活動に直結しているケースが多いと推測できる。

ギラヴァンツ北九州が北九州市にもたらす経済効果を考える際は、特に対戦相手の応援者を中心とする「市外からの訪問者」の市内での経済活動が重要なポイントとなる。他クラブ応援者の 31.7%（2014 年調査 36.7%、2013 年調査 59.8%）が経済活動を行う意向を示しており、他クラブ応援者が北九州市内で消費活動を行う意欲は高く、経済効果が期待できることを示している。なお、2013 年はファジアーノ岡山戦で調査を実施しており、経済活動を行う比率が高い理由としては、岡山から新幹線や乗用車で来場した観戦者が多いので往路や帰路に小倉駅周辺や門司港レトロ地区などで観光・飲食等を行いやすかったためと推測する。対戦相手によって、アウェイサポーターの人数や経済活動の有無は大きく変動すること表している。

経済活動を行う場合の北九州市内の主な活動場所を尋ねた結果を表 9 に示す。過年度調査同様、ギラヴァンツ北九州応援者は「本城・二島・北九州学研都市周辺」の回答が多く、また黒崎・小倉の各駅周辺にも分散しているが、2014 年調査と比較して黒崎駅は 21.6%から 12.1%へと減少しており、黒崎への立ち寄りあるいは黒崎駅の利用が 2015 年は減少したと推測できる。他クラブ応援者については回答数が少ないため参考程度の扱いとなるが、本城周辺に加え、小倉駅周辺、門司・門司港レトロを挙げる回答者が多くなっており、試合観戦が交通結節点や著名観光地等での経済活動を誘発していると言えよう。

#### 4 当日のスタジアム、イベントに対する評価

調査対象試合におけるスタジアム及びイベントに関する 6 項目について 5 段階で評価を尋ねた結果のうち、ギラヴァンツ北九州応援者に関する結果を図 15 に示す。

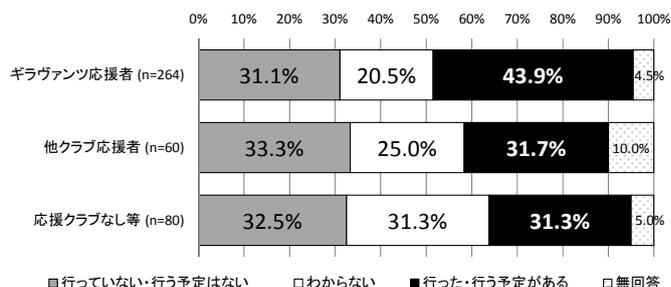


図 14 観戦前後の北九州市内での経済活動

表 9 北九州市内での経済活動場所（3 つまで複数回答）

	ギラヴァンツ応援者 (n=116)	他クラブ応援者 (n=55)	応援クラブなし等 (n=25)
本城・二島・学研周辺	62.9%	47.4%	60.0%
折尾駅周辺	10.3%	5.3%	0.0%
黒崎駅周辺	12.1%	10.5%	4.0%
八幡駅・スペースワールド周辺	8.6%	5.3%	8.0%
小倉駅周辺	14.7%	26.3%	28.0%
若松駅周辺	4.3%	0.0%	0.0%
門司・門司港レトロ	5.2%	15.8%	4.0%
小倉南区	6.0%	5.3%	8.0%
その他	0.9%	0.0%	8.0%
無回答	0.0%	5.3%	0.0%

ギラヴァンツ北九州応援者から「とても良い」、「良い」という肯定的な回答が比較的多いのは、「スタジアムにおけるスタッフの対応」、「スタジアムの雰囲気」であり、双方とも 60%以上の回答者が肯定的に評価している。一方、評価が低いのは「スタジアム施設・設備の快適さ」である。

この結果について、「とても良い」2 点、「良い」1 点、「どちらとも言えない」0 点、「悪い」△1 点、「とても悪い」△2 点として項目別平均点を算出し、過年度調査（2011 年以降）と比較を行ったものを図 16 に示す。2015 年調査は 2014 年調査と比較し、全般的に評価は横ばい、またはやや下落しており、スタジアム運営に関するクラブの取り組みについて観戦者からやや厳しい目の評価が行われたと言えよう。なお、過去を見ると 2013 年が各項目とも評価の「底」であったことが表れている。

一方、他クラブ応援者について見た結果を図 17 に示す。過年度調査ではギラヴァンツ応援者と比較し他クラブ応援者の方が大幅に低い評価を行う傾向があったが、2015 年調査においてはギラヴァンツ応援者との大きな差はない。また、他クラブ応援者（アウェイサポーター等）にとつ

て重要な「スタジアム及び周辺の案内（看板など）」の評価が高い点は、2015年シーズンからクラブが工夫して取り組み始めた多くの案内看板設置が高評価として表れた結果と言えよう。

こうした改善の取り組みを引き続き進め、観戦者の満足度を高めることが求められる。

なお、現在本拠地として使用している北九州市立本城陸上競技場（八幡西区）は2016年シーズンで本拠地としての役目を終え、2017年シーズンからは現在建設中の北九州市立北九州スタジアム（小倉北区）がギラヴァンツ北九州の本拠地となる予定である。スタジアムに対する評価に

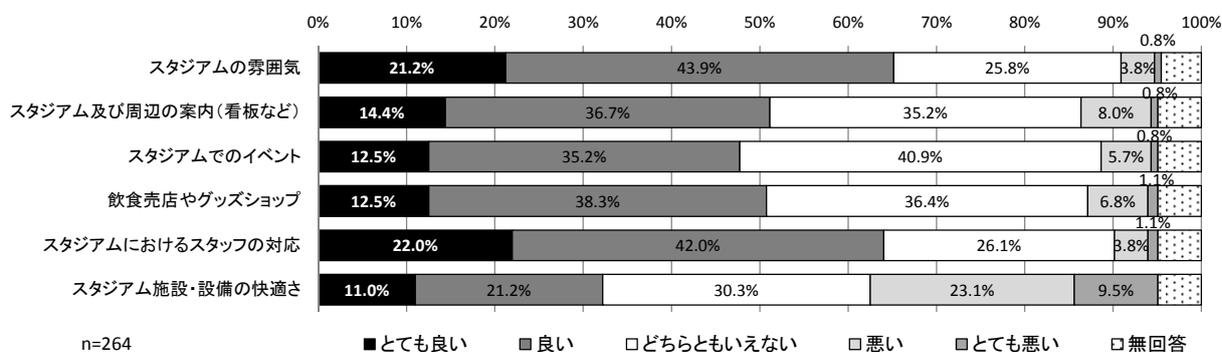
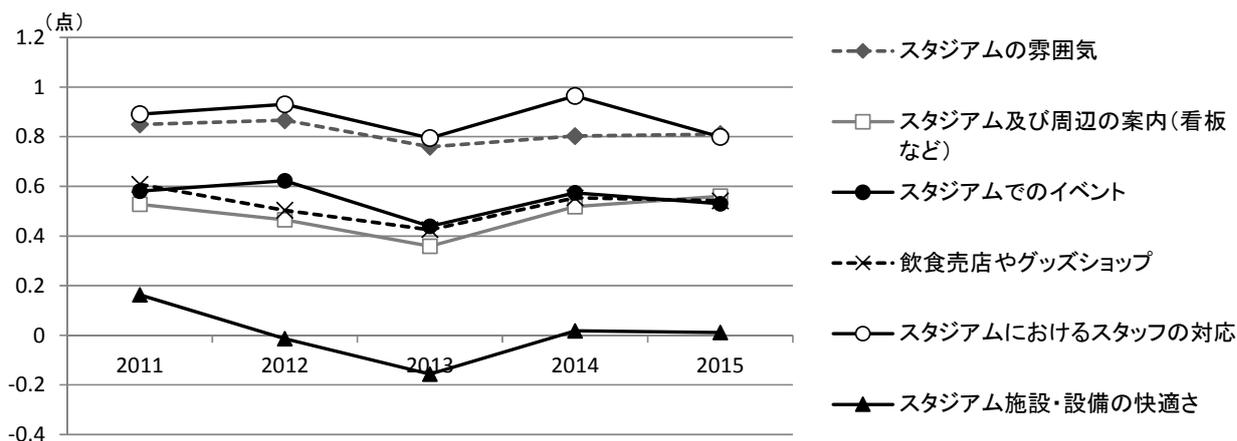


図 15 スタジアム（本城陸上競技場）及びイベントに対する評価（ギラヴァンツ応援者）



※ 各年ごとに平均点を算出(とても良い:2点、良い:1点、どちらともいえない:0点、悪い:△1点、とても悪い:△2点)

図 16 ギラヴァンツ応援者のスタジアム及びイベントに対する評価 経年比較

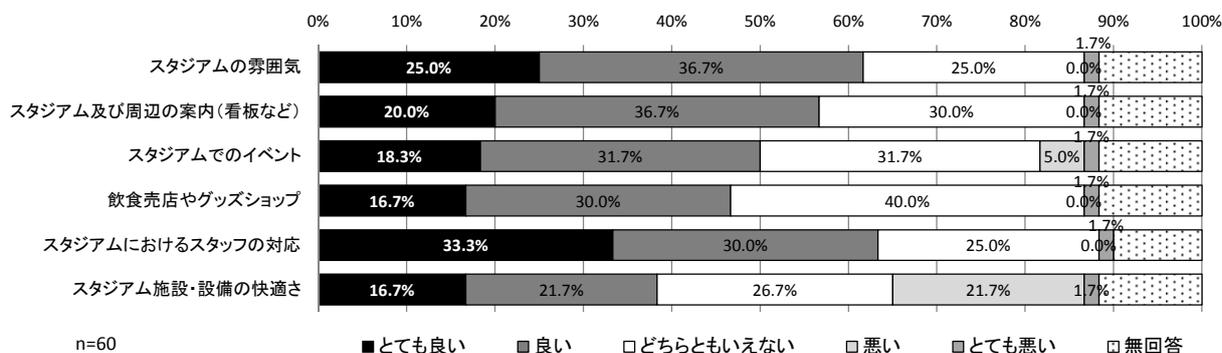


図 17 スタジアム（本城陸上競技場）及びイベントに対する評価（他クラブ応援者）

についてもハード面を中心に前提条件が抜本的に変化することとなるが、ホスピタリティ等のソフト面については現在の取り組みがベースとなる。2016年シーズンにおいても、一層の充実した取り組みがクラブには求められる。また、スタジアムの雰囲気はクラブのみならずサポーターによって醸成される部分大きい。サポーター側の取り組みも重要となる。

## 5 Jリーグ、ギラヴァンツに対する印象

### (1) サッカー、Jリーグに対する印象

ギラヴァンツ北九州応援者に対し、社会貢献の視点からサッカー、Jリーグに対する印象（4項目）について5段階で回答を求めた結果を図18に示す。2014年調査と同様、「Jクラブは、それぞれのホームタウンで重要な役割を果たしている」、「サッカーは、若い人たちの生活に、いい影響を与えることができる」、「ギラヴァンツ北九州は、ホームタウンで大きな貢献をしている」は肯定的な評価が70%を超え、「サッカー選手は、社会の模範として重要な役割を果たしている」も肯定的な評価が60%を超えている。スタジアム観戦

者はサッカーの社会貢献を高く評価している人が多い。

このうち、「ギラヴァンツ北九州は、ホームタウンで大きな貢献をしている」については、2014年調査において「大いにあてはまる」とする回答が大きく伸びたが、2015年調査では低下している（図19）。「ややあてはまる」を含んだ肯定的回答としては大きな変化はないが、より積極的に高評価している回答者比率が減少している点、そして「まったくあてはまらない」という強い否定的回答が増えている点は、ギラヴァンツによる地域貢献活動や広報活動にとって課題である。

### (2) ギラヴァンツ北九州応援者としての認識

ギラヴァンツ北九州のファンである事に対する回答者の認識（3項目）を5段階で回答を求めた結果を図20に示す。「ギラヴァンツ北九州のファンであることは、あなたにとってとても重要である」については「大いにあてはまる」が37.9%（2014年調査40.9%）、「ややあてはまる」が24.2%（2014年調査28.7%）にのぼる等、ギラヴァンツ北九州のファンである事を自身にとって重要と

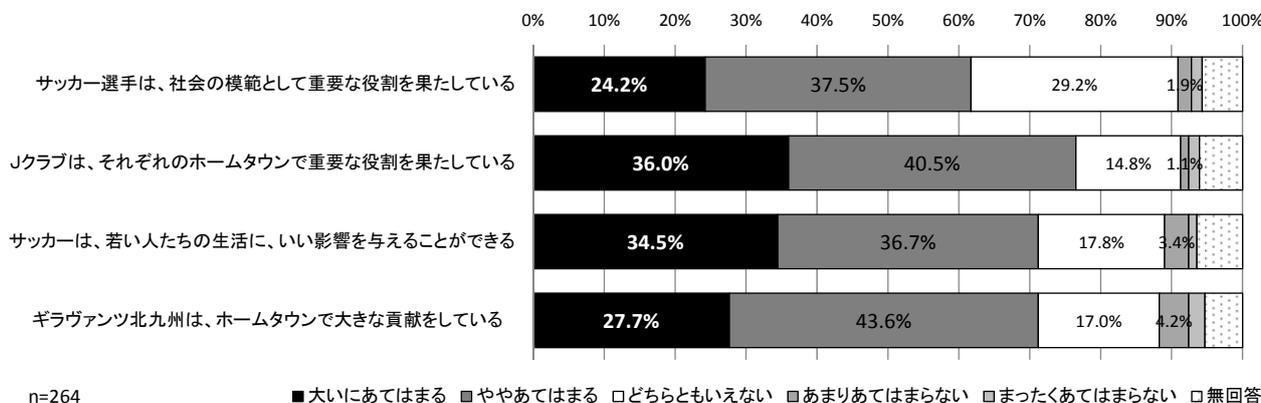


図18 サッカー、Jリーグに対する印象

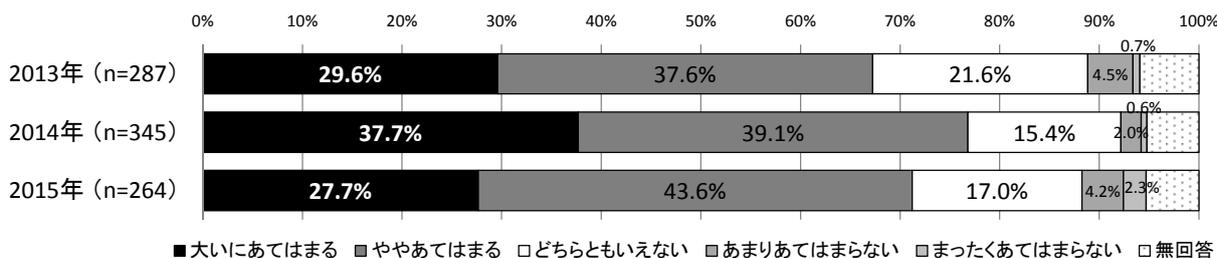


図19 「ギラヴァンツ北九州は、ホームタウンで大きな貢献をしている」の経年比較

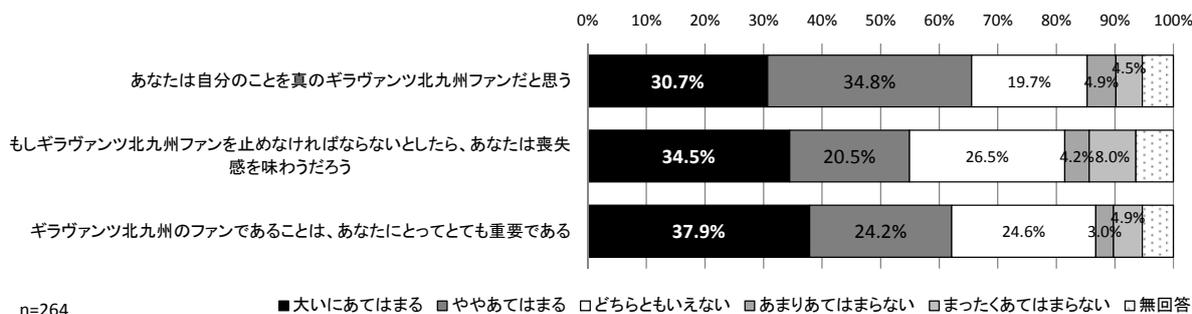


図 20 ギラヴァンツ北九州応援者としての認識

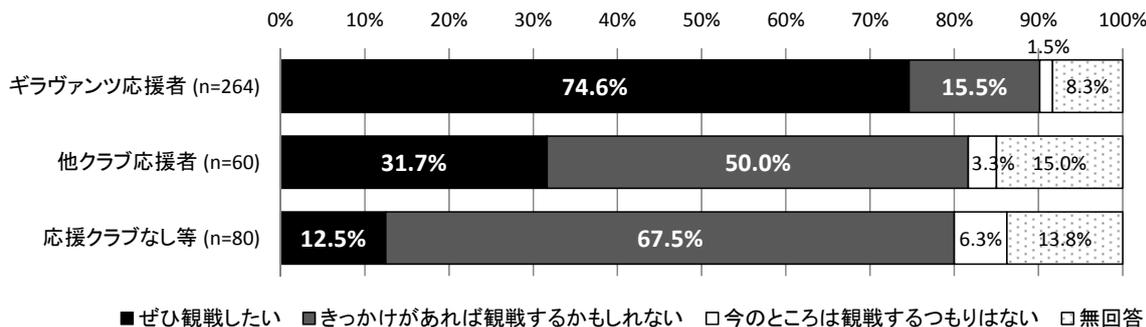


図 21 今後のギラヴァンツの試合の観戦意向

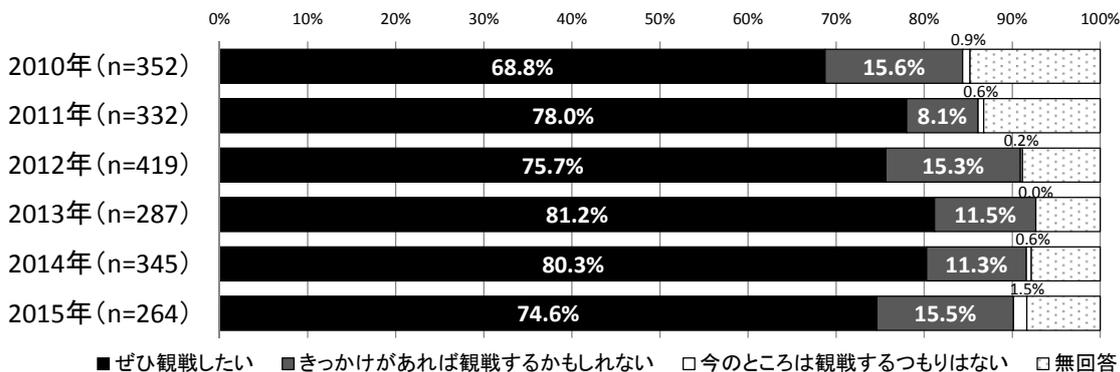


図 22 今後のギラヴァンツの試合の観戦意向の経年比較（ギラヴァンツ応援者）

考えている人が多いが、各項目とも 2014 年調査より肯定的な回答の比率がやや低下している。

その原因については本アンケート調査結果からでは把握できないが、推測される要素の一つとして、ギラヴァンツ北九州のコアサポーターの応援スタイルを巡る諸問題（「ぶちくらせ問題」と呼ばれることがある。）があると考えられる。その詳細な経緯や、この問題に関する論考等については本稿では扱わないが、クラブ側と一部サポーターの対立が本調査の実施時点において発生しており、それが報道を通じて広まっていたことも一部のスタジアム観戦者の心理に影響を与えた可能性は指摘できる。

## 6 今後のギラヴァンツの試合の観戦意向

今後もギラヴァンツ北九州の試合をスタジアムで観戦したいと考えているかどうか尋ねた結果を図 21 に示す。ギラヴァンツ北九州応援者において「ぜひ観戦したい」とする回答者は 74.6%であり、観戦継続意欲は高い。一方、応援クラブなし等の回答者の 67.5%が「きっかけがあれば観戦するかもしれない」としており、こうした回答者の中には「潜在的なギラヴァンツ北九州応援者」も含まれると考えられるため、きっかけを提供することによって観戦者が増加する可能性はある。

このうち、ギラヴァンツ北九州応援者について、本設問の経年変化を見た結果を図 22 に示す。J

リーグ加盟初年の 2010 年は「ぜひ観戦したい」とする回答が 68.8%であり、その後増加傾向にあったが、2015 年調査では比率を落としている。ただし、「きっかけがあれば観戦するかもしれない」とする回答まで含めると観戦に肯定的な回答者の比率は 2014 年と 2015 年の間にほぼ差は無い。

積極的な観戦意向を持つ応援者が減少した点についても、前述の応援スタイルを巡る混乱が反映された可能性がある。今後のクラブやサポーター、地域の取り組みによって、2016 年調査の本設問の結果は変化すると思われる。

## 7 ギラヴァンツ応援者の拡大方策

ギラヴァンツ北九州を応援する人をもっと増やすために必要だと思う点(3つまで複数回答可)を尋ねた結果について、図 23 に示す。

ギラヴァンツ北九州応援者からは、「ギラヴァンツ北九州が J2 の上位争いをしたり、J1 に昇格したりすること」および「試合やイベントの情

報がもっと広報されること」が特に多い。次いで「スタジアムをより一層、魅力的な雰囲気的空間にすること」、「選手・監督が、市民とふれ合う機会を増やすこと」、「ギラヴァンツ北九州のやっているサッカーの内容がおもしろいこと」、「選手・監督の情報がもっと広報されること」、「試合の日に、試合を見ること以外の楽しみがスタジアムにあること(イベント、グルメ販売の充実など)」、「チームに地元出身の選手が増えること」が多く、これらは回答率 20%を超えている。

チームの強化や編成上の工夫、スタジアム運営の充実、広報の充実、ホームタウン活動の充実など、クラブの総合力強化がファンの拡大に繋がると応援者は考えており、今後も引き続きクラブが中心となって、地域を挙げて集客活動に取り組んでいくことが求められよう。

なお、他クラブ応援者や応援クラブなしの回答者からも概ね同様の回答となっている。

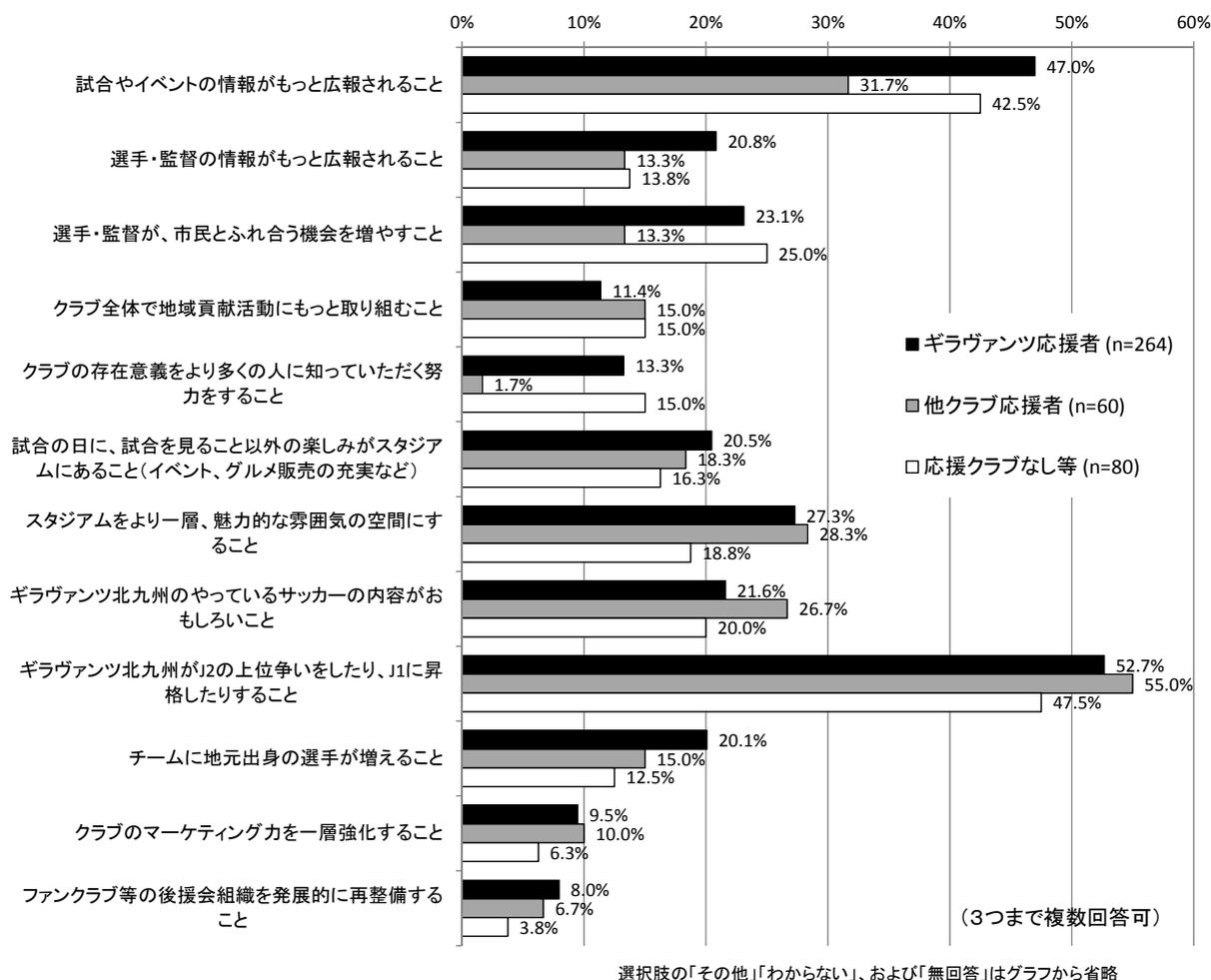


図 23 ギラヴァンツ北九州のファン拡大のために必要な取り組み等 (3つまで複数回答)

## 8 地域貢献（ホームタウン）活動への期待

ギラヴァンツ北九州に期待する地域貢献（ホームタウン）活動について尋ねた結果（3つまで複数回答可）を図24に示す。

ギラヴァンツ北九州応援者から最も期待されている活動は「選手やコーチによる学校訪問」であり、ほぼ半数が選択している。次いで「地元サッカーチームや中学、高校の部活動への指導者派遣」であり、この2項目が特に多い。

次いで、「各種スポーツ大会やスポーツイベントの開催」、「わっしょい百万夏まつりなどの大規模なイベントへの参加」、「クラブや選手による北九州の情報の外部への発信」、「地域の祭りやイベント等への参加」が30%前後と高い回答率となっている。これらの点は過年度調査と同じ傾向である。また、応援クラブなしの回答者についても、概ね似た傾向が見られる。

ギラヴァンツ北九州が現時点で実施している地域貢献活動は多岐にわたるが、今後もそれを一層充実していくことが期待されている。

## 9 北九州市の新スタジアムについて

2017年3月供用開始予定の北九州市の新しいスタジアム「北九州スタジアム」は、JR小倉駅そば（徒歩7分程度）の場所に整備される。ギラヴァンツ北九州の新しいホームスタジアムとなる予定であり、現在の本城陸上競技場とは交通利便性や周辺の土地利用状況が大きく異なる。これを踏まえ、2012年調査から、北九州スタジアムが整備された場合の観戦者の行動形態の予定に関する質問を行い、スタジアムの整備効果等について測定を行っている。2015年調査においては交通手段の項目はスタジアム着工の段階となったため役割を終えたと考え削除し、経済活動に関する質問、スタジアムへの期待に関する質問を行った。また、新たな設問として、自由記入式で北九州スタジアム活用の具体的アイデアを求めた。

### (1) 北九州スタジアムでの観戦前後の経済活動

小倉駅近くの商業集積地に立地する北九州スタジアムでの観戦前あるいは観戦後に、買い物・

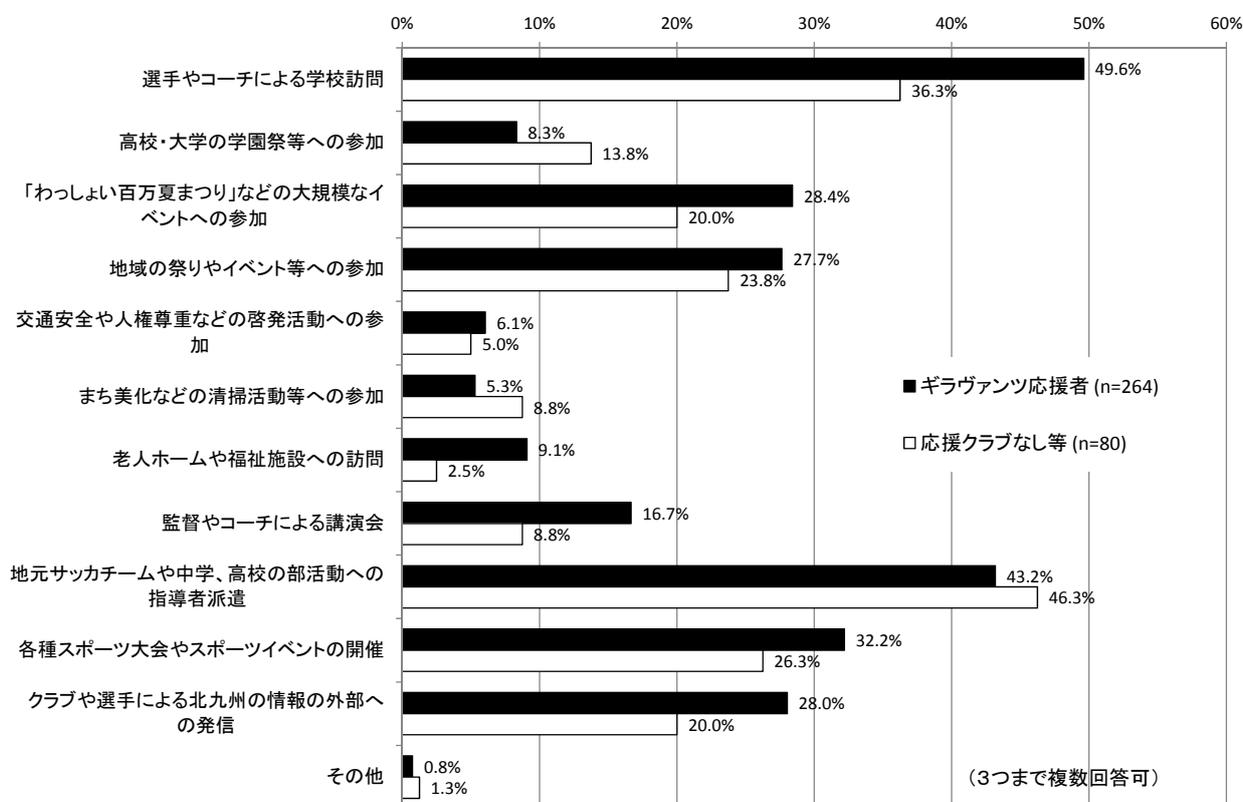


図24 ギラヴァンツ北九州に期待する地域貢献活動（3つまで複数回答）

飲食等を行うと予想する場所について尋ねた結果を図 25 に示す。

ギラヴァンツ応援者については、小倉駅の新幹線口（北口）・小倉城口（南口）についてそれぞれ 50%以上の回答者が選択している。他クラブ応援者もスタジアムに近い新幹線口で 55%、小倉城口でも 35%が消費活動に前向きな回答である。

また、「観戦のみを行い、観戦前後には消費活動を行わないつもり」はギラヴァンツ応援者では 6.1%、他クラブ応援者では 8.3%にとどまり、現行の本城陸上競技場において「経済活動を行わない」とする回答がそれぞれ約 30%（図 15）であることを勘案すると、経済活動を行わない人が大幅に減少することが見込まれる。

この傾向は過年度調査と同様である。

新たに整備される北九州スタジアムによって小倉駅の南北のエリア（商業施設や飲食店等の集積地）で観戦者の多くが経済活動を行うことが期待でき、まちのにぎわいづくりに寄与する可能性が高いと言える。

## (2) 北九州スタジアムへの期待

北九州スタジアムに特に期待すること（3 つまで複数回答可）について尋ねた結果を図 26 に示す。

ギラヴァンツ北九州応援者、それ以外の回答者とも「専用球技場として、観客席とピッチが近いなど、臨場感溢れる観戦環境が整うこと」及び「観

客席に屋根が設置されるなど、快適な観戦環境が整うこと」への回答が約 50～70%と高くなっており、現在の本城陸上競技場からの観戦環境向上への期待が特に大きいことが明らかである。この結果は過年度調査と同様である。

その他の項目としては、ギラヴァンツ応援者からは「試合前後にスタジアムグルメが楽しめること」、「サッカー以外に、コンサートやイベントなどが多く開催されること」、「北九州市の新たなシンボル施設として、都市ブランドの向上につながる」、「スタジアムの活用により北九州市への観光客増加につながる」が回答率 20%台で比較的多くなっている。

一方、応援クラブなし等の回答者、つまりギラヴァンツへの関心度合いがやや低い人々からは「サッカー以外に、コンサートやイベントなどが多く開催されること」の回答率が 36.3%と高い。天然芝の整備されたグラウンドと 1 万 5 千人収容のスタンドを持つ高規格な公共施設として、サッカー以外の多目的な利用が期待されており、こうした多様な施設活用が北九州市のまちのにぎわいづくりに繋がっていくと言え、今後のまちづくりにおける重要課題である。

## (3) 北九州スタジアムの活用策

自由記入式で北九州スタジアム活用の具体的アイデア（Jリーグの開催以外の活用策）を求めたところ、ギラヴァンツ北九州応援者とそれ以外の

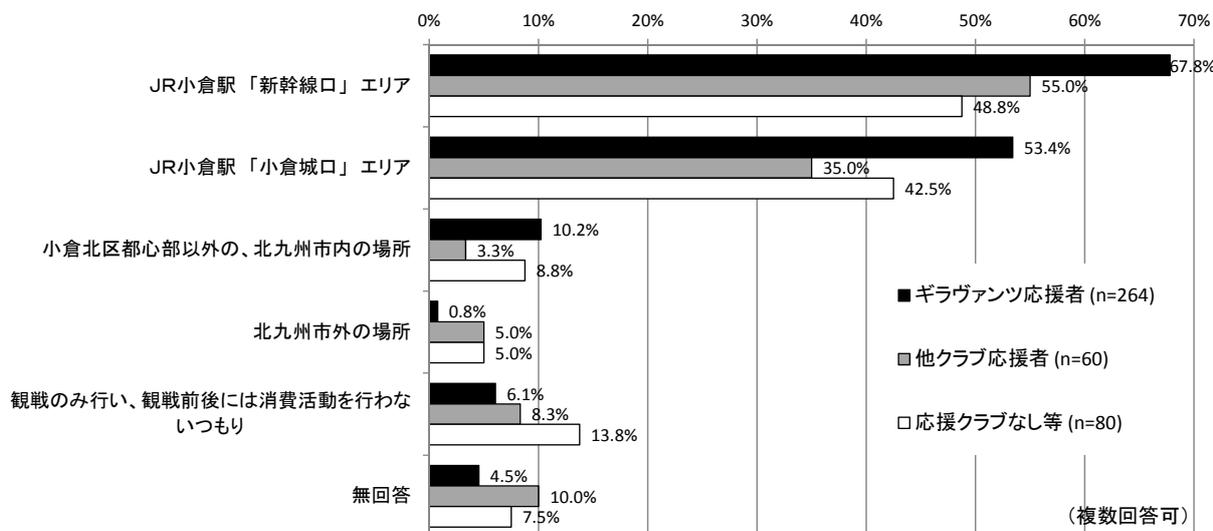


図 25 北九州スタジアムでの観戦前後における北九州市市内での経済活動場所（複数回答可）

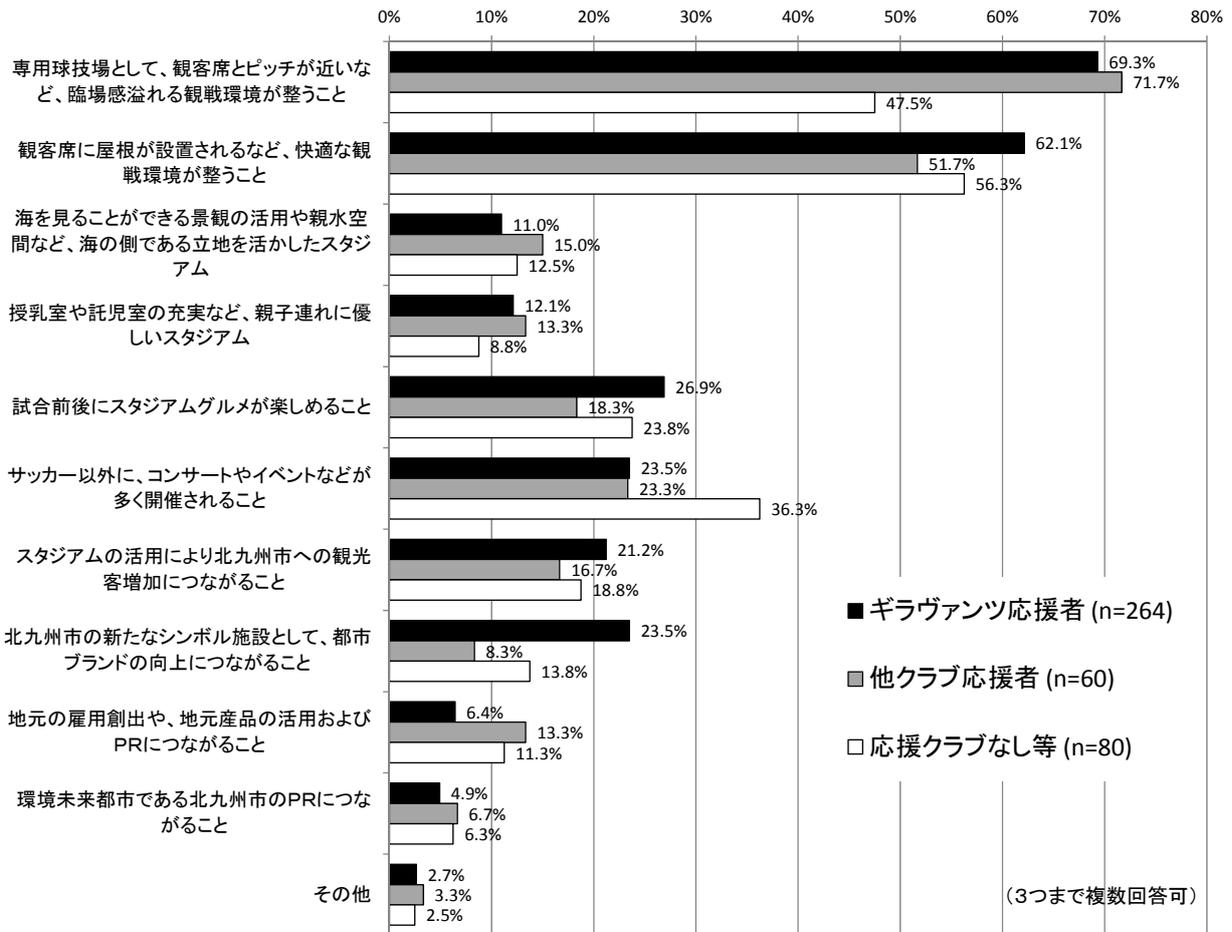


図 26 北九州スタジアムへの期待

回答者を合わせて 104 人から記入があった。その結果を大きく分類したものを表 10 に示す。

多い意見として「コンサート・ライブなどの音楽イベントの開催」、「一般市民・子ども向けの(芝生) 開放イベント等」が挙げられる。前者は広域的な集客イベントでまちににぎわいをもたらす種類のイベント、後者は市民がスタジアムを身近な公共施設として低負担で活用できるイベントであり、性質が異なる、これら両面での活用が北九州スタジアムに求められていると言えよう。

なお、「一般市民・子ども向けの(芝生) 開放イベント等」としては、例えば「学校の体育祭の開催、市民グラウンドとしての開放」、「子どもたち(幼・小体連、中体連、高体連)の色々な大会が安価で開催できるように」等の記入があった。

それ以外に多かった意見として、「その他の各種イベント」としては、パブリックビューイング、グルメイベント、ポップカルチャー関連イベントの開催などの要望があった。また、「(Jリーグ以

表 10 北九州スタジアム活用策の意見分類

大項目	中項目	小項目	回答数
活用策	スポーツ	一般市民・子ども向けの開放イベント	15
		サッカー	12
		ラグビー	7
		北九州マラソンのスタートorゴール	2
		その他の各種スポーツイベント	5
		音楽等	コンサート・ライブの開催
	その他の各種イベント	12	
施設見学	消極的意見	スタジアム見学ツアーの開催	4
		芝保全を重視すべき(活用の抑制)	3
その他		施設・設備充実への要望	12
		ギラヴァンツの試合運営に関する要望(座席割など)	8
		その他	3

外の) サッカー」、「ラグビー」での活用を求める意見も多かった。

全般に多様な活用策を期待する意見は多く、天然芝保全などの施設利用に係る様々な制約を踏まえた上で、具体的なイベントの検討や誘致活動を進めていくことが PFI 事業者や市には求められる。

なお、施設・設備の充実やJリーグの試合開催時の配慮に関する意見も見られ、例えば収容定員（当面1.5万人）の拡充の早期実現、トイレの充実、選手とサポーターが触れ合うことのできるスペースの設置などの記述があった。

#### IV おわりに

2010年以降、筆者は継続的にギラヴァンツ北九州のスタジアム観戦者の実態や意識を調査・分析して経年変化を把握しており、本稿の2015年調査においては観戦者像に大きな変化は見られなかったが、調査時点（2015年10月）で発生していたギラヴァンツ北九州の応援スタイルを巡る問題が影響したと推測できる若干の意識変化等も見られた。

本稿の結果、および自由記入された「観戦者の生の声」については、ギラヴァンツ北九州や市に提供し、ギラヴァンツ北九州がより一層、北九州地域の社会・経済に好影響を与えるクラブとなる方策を検討する際の基礎資料として活用することを提案していく。

次年度以降も引き続きギラヴァンツ北九州のスタジアム観戦者調査を実施し、その結果の分析・考察を行い、また併せてそれを踏まえた大学としての社会貢献活動の実践を行っていくことが今後の研究課題である。

また、設問設計や分析においては、より効果的な手法を導入することも検討していきたい。

#### 謝辞

本研究は公益社団法人日本プロサッカーリーグ「2015スタジアム観戦者調査」の実施にあたり、筆者が実査協力者（ギラヴァンツ北九州担当）として参画する機会に合わせ、独自の設問を追加する形で実施した調査結果に基づいている。調査機会を与えていただき、また実施に協力いただいた日本プロサッカーリーグ及び（株）ギラヴァンツ北九州、また本調査に御協力いただいた回答者の皆様に深謝する。

#### 注

- 1) 本研究のうち、Jリーグ共通設問については公益社団法人日本プロサッカーリーグ（2016）の分析と同一のデータを用いている。本研究では有効回答の中で無回答の設問があった場合は「無回答」として集計に含めて処理する等、データ処理方法に日本プロサッカーリーグ（2015）と若干の違いがあるため、集計結果の数値はわずかに異なる場合がある。ただし考察に際して影響を与える規模の差異はない。

#### 参考文献

- 日本プロサッカーリーグ（2016）『Jリーグスタジアム観戦者調査2015サマリーレポート』
- 南博（2015）「ギラヴァンツ北九州の2014年スタジアム観戦者の現状分析」、北九州市立大学都市政策研究所『北九州における集客イベントの効果と展望』、pp.45-58
- 南博（2014）「集客低迷期のプロスポーツクラブのスタジアム観戦者実態と課題～2013年ギラヴァンツ北九州スタジアム観戦者調査結果から～」、北九州市立大学都市政策研究所『都市政策研究所紀要』No.8、pp.67-93.
- 南博（2013）「2012年のギラヴァンツ北九州のスタジアム観戦者の意識と特性」、北九州市立大学都市政策研究所『北九州における「集客」の現状と課題～ギラヴァンツ北九州、B-1 グランプリ in 北九州～』、pp.3-28.
- 南博（2012）「2011年におけるギラヴァンツ北九州のスタジアム観戦者像」、北九州市立大学都市政策研究所『都市政策研究所紀要』No.6、pp.83-112.
- 南博（2011）「Jリーグ加盟1年目におけるギラヴァンツ北九州のスタジアム観戦者分析」、北九州市立大学都市政策研究所『都市政策研究所紀要』No.5、pp.75-100.
- J.LEAGUE Data Site < <https://data.j-league.or.jp/SFTP01/> >

## 2016年シーズン開幕直後のギラヴァンツ北九州に対する市民意識

北九州市立大学 地域戦略研究所 准教授 南 博

### I はじめに

ギラヴァンツ北九州(以下、ギラヴァンツ)はプロサッカークラブとして市民にスポーツ観戦による感動や楽しさを提供し、また、それらがシビックプライドの醸成やにぎわいづくり(経済的効果)等に寄与することが期待されている。

こうした機能を発揮するためには、クラブやそれを支える地域団体等が、ホームタウンである北九州市民のギラヴァンツに対する意識を把握することが重要であり、市民意向を踏まえた上で、各種事業やスポンサーや行政はじめ地域団体等からの各種支援等が行われることが望ましい。

こうした問題意識のもと、筆者はギラヴァンツがJリーグに加盟した2010年、3年目となる2012年、4年目となる2013年、6年目となる2015年の4回にわたり、各シーズン開幕直前または開幕直後の時期(各年2月または3月)に北九州市民に対する意識調査を実施している<sup>1)</sup>。

ギラヴァンツは、2016年シーズンまではJリーグクラブライセンス制度において本拠地スタジアムの収容定員等の要件を満たさなためJ1昇格ができなかったが、2017年3月に新しい本拠地となる北九州市立北九州スタジアムが供用開始予定であり、このスタジアムはJ1基準を満たす見込みのため、2016年シーズンの成績次第によっては翌年のJ1昇格が可能となる。そのため、クラブは昇格に向けて北九州市出身の元・日本代表選手である本山雅志選手を獲得するなど、2015年12月から2016年2月のシーズンオフにおいては様々な話題を地元に取りまいた。

こうした状況となったことも踏まえ、市民意識調査は経年的な変化を定点観測的に把握することが重要であることから、ギラヴァンツや北九州スタジアムに対する市民意識の現状と変化を把握することを目的として、2016年シーズン開幕直後に市民意識調査を実施した。本稿は、その結果及び考察について、速報的に整理するものである<sup>2)</sup>。

### II 市民意識調査の実施概要等

#### 1 実施概要

市民意識調査の実施概要を表1に示す。南(2015a)などの指摘と同様、学術研究におけるインターネット調査の有意性を巡っては様々な議論があり、インターネットを利用するという制約から、高齢者やパソコン等の利用が容易ではない市民からの回答は少なくなる点、それらに起因し「登録されたモニターの回答は、調査対象とすべき母集団(本調査においては一般的な北九州市民)の意見を代表していると証明できない」点などが指摘されている。しかしながら、住民基本台帳等からの無作為抽出による調査は、実施に際して個人情報保護の観点等から様々な課題がある。これらの点を総合的に勘案し、筆者による先行研究においても同様のインターネット調査を採用しており、今回もそれを踏襲する。ただし、得られた結果が一般的な北九州市民の意見の傾向と一致することが証明されるものではない点に十分留意する必要がある。

なお、調査手法については2010年、2012年、2013年、2015年調査と同様であり、実施時期も概ね同様である。ただし2016年調査では回収サンプル数は2015年調査の1,844に対し1,087であり、また実施時期はJ2リーグ開幕後、半月が経過したタイミングでの実施となった。これらの相違については、結果を比較する際に特には支障にはならないものと認識している。

表1 2016年調査の実施概要

	2016年調査	(参考)2015年調査
調査方法	インターネット調査	
調査対象	北九州市に居住する18歳以上の市民のうち、(株)インテージが管理・利用する調査モニターへ登録している市民	
実施期間	2016年3月15日(火)~17日(木)	2015年3月4日(水)~6日(金)
有効回答数	1,087	1,844

## 2 回答者の属性

回答者の属性を表2に示す。性別については男女ほぼ半々である。年齢についてはインターネット調査の特性上、高齢者が少なく、30～50歳代が大半を占める。なお、過去の調査においても概ね同様の結果となっている。

また、回答者の居住している行政区について表3に示す。実際の人口分布と概ね一致した回答状況となっている。過去の調査においても概ね同様の結果となっている。

表2 回答者の性別・年齢

	男性	女性	合計
18～19歳	2	2	4
	0.2%	0.2%	0.4%
20代	16	65	81
	1.5%	6.0%	7.5%
30代	103	193	296
	9.5%	17.8%	27.2%
40代	195	151	346
	17.9%	13.9%	31.8%
50代	142	85	227
	13.1%	7.8%	20.9%
60代	75	37	112
	6.9%	3.4%	10.3%
70代以上	13	8	21
	1.2%	0.7%	1.9%
合計	546	541	1,087
	50.2%	49.8%	100.0%

※構成比は総合計に対する比率

## III 集計結果および考察

### 1 Jリーグで応援しているクラブ

「あなたは現在、サッカーのJリーグで応援しているクラブはありますか。応援しているクラブを選んでください。(回答はいくつでも)」という設問に対する回答結果を図1に示す。

最も多いのは「応援しているクラブは無い」で62.4%であるが、2015年3月調査の69.7%からは減少している。

応援しているクラブとして最も多いのはギラヴァンツ北九州であり、33.4%となっている(他のクラブと併せて応援している場合も含む)。次いでアビスパ福岡が14.4%と比較的多く、サガン鳥栖など他のクラブは3%以下となっている。

この結果のうち、大半を占める「ギラヴァンツ北九州」という回答と「応援しているクラブは無い」という回答について、過去の調査<sup>3)</sup>と比較した結果を図2に示す。ギラヴァンツを応援している市民は2015年まで減少傾向にあったが、2016年3月には増加に転じ、2012年2月調査に近い状態となっている。なお、ギラヴァンツ応援者の増減と概ね反比例する形で「応援しているクラブは無い」とする回答が増減している。

2016年1～3月においては、前述のとおり2016年シーズンから初めてJ1昇格を懸けた戦いをギラヴァンツ北九州ができるようになることや、知名度が高い地元出身選手の加入等によって北九州地域でのギラヴァンツに関する報道量が増えたこと等が、ギラヴァンツに対する関心度合いの再上昇に繋がった可能性がある。

なお、クラブ側としては、市民の中にJリーグへの関心のない人々が60%以上存在することを前提に、集客活動やホームタウン活動を工夫していく必要がある。

表3 回答者の居住地

居住地	回答者数	構成比
門司区	117	10.8%
小倉北区	207	19.0%
小倉南区	233	21.4%
若松区	100	9.2%
東部(若松、向洋、石峯中学校区)	34	3.1%
西部(二島、洞北、高須中学校区)	66	6.1%
八幡東区	92	8.5%
八幡西区	264	24.3%
北部(浅川、本城、折尾、則松、熊西、穴生、黒崎、引野、花尾中学校区)	181	16.7%
中南部(北部に含まれない区域)	83	7.6%
戸畑区	74	6.8%
合計	1087	100.0%

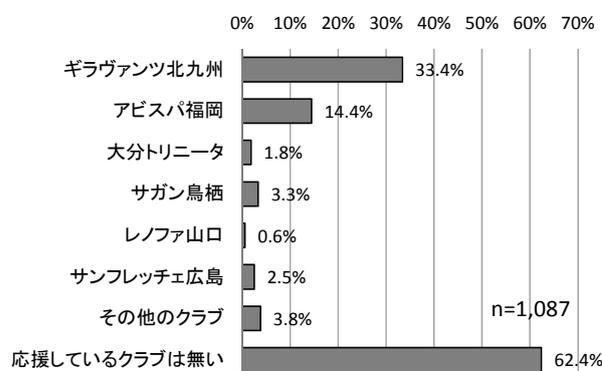


図1 Jリーグで応援しているクラブ

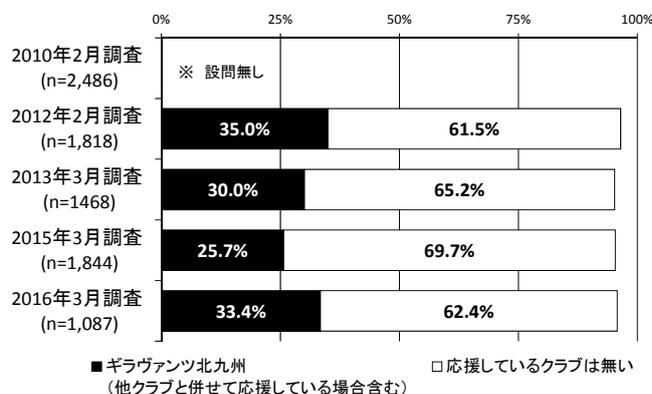


図2 応援クラブに関する経年比較

## 2 ギラヴァンツの認知度

「あなたは、Jリーグのクラブである「ギラヴァンツ北九州」（あるいは、その前身のニューウェーブ北九州）というサッカークラブを知っていましたか。」との択一式質問に対し、ギラヴァンツ北九州を知っている回答者は（前身のニューウェーブ北九州の認知には拘らず）、87.4%にのぼっている（表4）。認知度は高いと言えよう。

この設問について、過去の調査と比較した結果を図3に示す。ギラヴァンツの認知度は2010年調査では60%台であったが、2012年調査以降では90%近くとなっている。ただし2013年調査と2015年調査および2016年調査の結果は概ね同じであり、認知度向上については「頭打ち」の状況にあると言えよう。

## 3 スタジアム観戦経験

「あなたは、「ギラヴァンツ北九州」（あるいは、その前身のニューウェーブ北九州）の試合をスタジアムで一度でも観戦したことがありますか。」との択一式質問に対する回答結果を図4に示す。

スタジアムで観戦したことがある回答者は14.9%となっており、過去調査と比較すると観戦経験者は増加傾向にあるが、2015年調査とはほぼ同じ結果である。

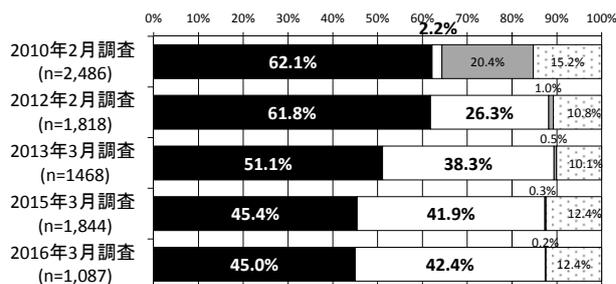
2016年調査の結果について、回答者の属性別に集計した結果を表5に示す。居住地については、ギラヴァンツのホームスタジアムである北九州市立本城陸上競技場（八幡西区と若松区の境界付近に位置）に近い若松区（東部、西部の双方）、

表5 「スタジアム観戦経験」属性別集計

		スタジアムで観戦したことがある	スタジアムで観戦したことはない	回答対象外（ギラヴァンツを知らない）
合計		14.9%	72.7%	12.4%
居住地	門司区	14.5%	70.1%	15.4%
	小倉北区	14.5%	71.0%	14.5%
	小倉南区	11.2%	73.4%	15.5%
	若松区 東部	20.6%	70.6%	8.8%
	若松区 西部	21.2%	72.7%	6.1%
	八幡東区	17.4%	69.6%	13.0%
	八幡西区 北部	19.9%	71.3%	8.8%
	八幡西区 中南部	13.3%	74.7%	12.0%
戸畑区	6.8%	85.1%	8.1%	
性別	男性	17.9%	72.7%	9.3%
	女性	11.8%	72.6%	15.5%
年齢	18-19歳	0.0%	50.0%	50.0%
	20代	9.9%	74.1%	16.0%
	30代	15.9%	69.9%	14.2%
	40代	16.2%	72.3%	11.6%
	50代	16.3%	73.1%	10.6%
	60代	10.7%	77.7%	11.6%
	70歳以上	9.5%	85.7%	4.8%

表4 ギラヴァンツの認知度

選択肢	回答者数	構成比	ギラヴァンツ認知度計
「ギラヴァンツ北九州」、「(前身の)ニューウェーブ北九州」の両方を知っている	489	45.0%	87.4%
「ギラヴァンツ北九州」は知っているが、「ニューウェーブ北九州」は知らなかった	461	42.4%	
「ニューウェーブ北九州」は知っているが、「ギラヴァンツ北九州」は知らなかった	2	0.2%	
どちらとも知らなかった	135	12.4%	
合計	1,087	100.0%	



■「ギラヴァンツ北九州」「(前身の)ニューウェーブ北九州」とも知っていた  
□「ギラヴァンツ北九州」は知っているが、「(前身の)ニューウェーブ北九州」は知らなかった  
■「(前身の)ニューウェーブ北九州」は知っているが、「ギラヴァンツ北九州」は知らなかった  
□どちらとも知らなかった

図3 「ギラヴァンツの認知度」経年変化

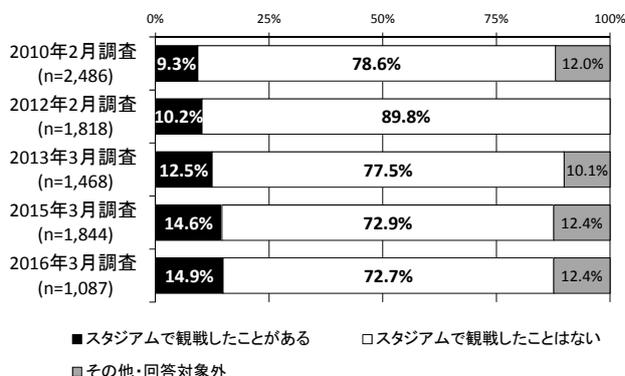


図4 「スタジアム観戦経験」経年変化

八幡西区北部において「観戦したことがある」回答者の比率が高い。一方、ホームスタジアムから遠い市東部3区や戸畑区においては「観戦したことがある」回答者の比率が低い。

性別では、男女間で観戦経験に大きな差があり、男性の方が観戦経験のある回答者が多い。年齢では30～50代の世代において観戦経験のある回答者が多く、若年層および高齢者層では少ない。

これらの傾向は、2015年調査と概ね同様である。

#### 4 シーズン別スタジアム観戦回数

スタジアムで観戦経験のある 162 サンプルに対し、2009 年以降の年別の観戦回数の回答を求めた結果を図 5 に示す。J リーグ加盟前あるいは加盟当初と比較し、直近の 2015 年においては観戦回数が多い回答者が多くなっている傾向が見られる。特に、年間の観戦回数が 11 回を超える回答者は年々増加しており、熱心な観戦者は増えていると考えられる。

ただし、観戦経験のある市民においても、調査前年（2015 年）において観戦回数が 0 回の回答者が 40%にのぼっており、また全般的に観戦回数の少ない回答者の方が多い。

なお、2015 年の観戦回数が過去の最高観戦回数より減少している回答者は 86 サンプル（観戦経験のある全 162 サンプルに占める割合 53.1%）であり、観戦経験のある市民の約半数がピーク時よりも 2015 年の方が観戦回数が減少していることとなる。

#### 5 観戦回数が 2015 年に減った理由

前問において 2015 年の観戦回数が他年の観戦回数と比べて減っている回答者（86 サンプル）に対し、減少した理由を尋ねた結果（3 つまで複数回答可）を図 6 に示す。

2016 年調査で最も多いのは「スタジアム（本城陸上競技場）に行くのが不便だから」であり、36.0%を占める。前述のとおり 2017 年シーズンからは新しい本拠地となる北九州スタジアム（J R

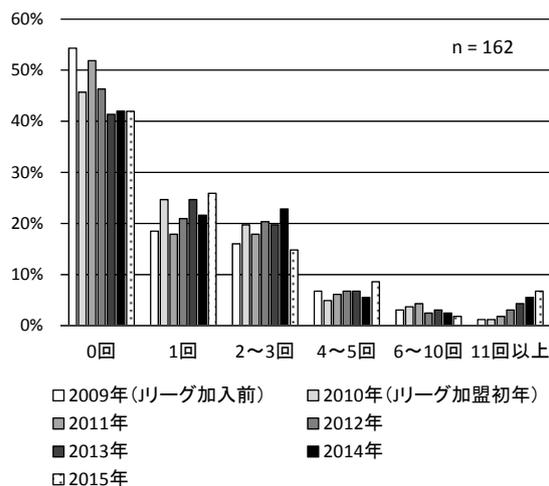


図 5 「スタジアム観戦回数」経年変化

小倉駅から徒歩 10 分弱）へと試合会場が移るため、多くの市民にとっては交通利便性向上につながることを期待される。

次いで多いのは「仕事や家事など、他のスケジュールの関係で行きづらくなったから」、次いで「なんとなく減った」である。この 2 項目については、試合観戦の優先度が低下した回答者が多いことを表していると言えよう。

2016 年調査、2015 年調査とも、上位はこれら 3 項目となっており、観戦回数減少の主たる理由と言える。

これら 3 つについては、クラブ側に主体的責任のある項目ではないが、こうした事情を乗り越えて観戦に行こうとする意欲を喚起できなかった点がクラブ側の課題と言えよう。

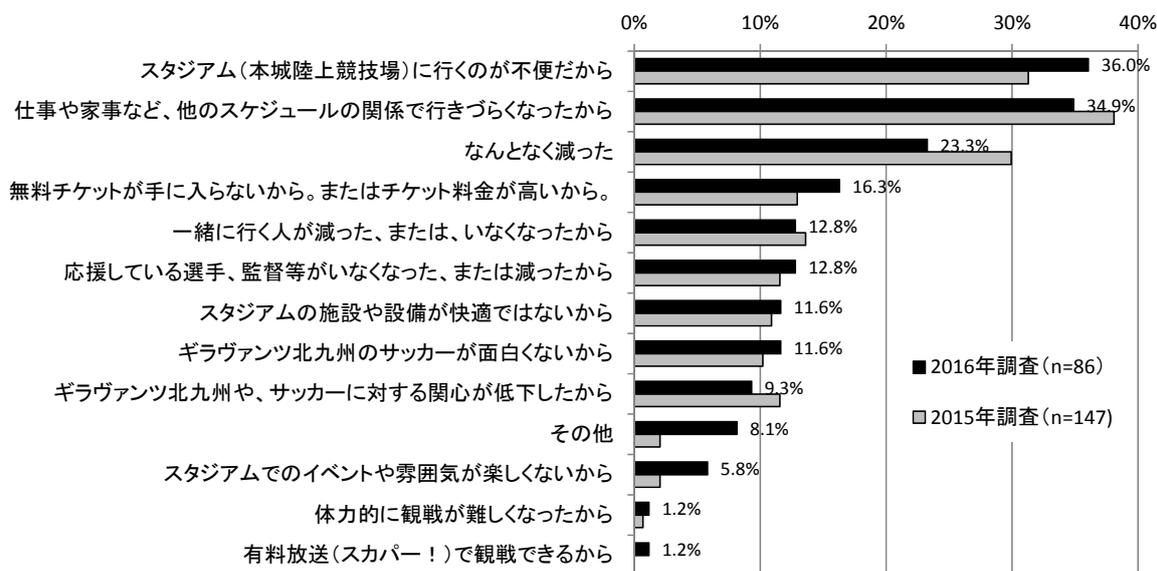


図 6 観戦回数が 2015 年に減った理由 (2016 年 3 月調査) と前年同様調査の比較

次いで多いのは「無料チケットが手に入らないから。またはチケット料金が安いから。」であり、16.3%にのぼる。Jリーグの公式戦は有料興行であるが、ギラヴァンツ北九州では各種招待事業やスポンサー優待等を行っている。スタジアム観戦者調査においても「チケットをもらった」とする回答者が42.0%（2014年スタジアム観戦者調査。南（2015b）による。）を占めており、北九州市民の中に「ギラヴァンツの試合は無料で観戦するもの」との意識を持っている人々も一部に存在していることをうかがうことができる。この無料招待事業を巡っては様々な効果と課題があると考えられており、その的確な運用がクラブや地域団体には求められる。

その他、「一緒に行く人が減った、または、いなくなったから」、「応援している選手、監督等がいなくなった、または減ったから」、「スタジアムの施設や設備が快適ではないから」、「ギラヴァンツ北九州のサッカーが面白くないから」など、観戦回数が減った理由は多岐にわたる。

## 6 本城陸上競技場への利用交通手段

スタジアムで観戦経験のある162サンプルに対し、本城陸上競技場に観戦に行く際の主な利用交通手段について尋ねた結果（最も当てはまるものを択一）を表6に示す。

70%以上が自家用車利用と回答しており、これはスタジアム観戦者調査（南（2015b））とも概ね一致する結果である。次いで多いのは自転車・オートバイ利用、徒歩であり、公共交通機関利用者は合計しても10%前後に止まる。

これは公共交通機関で訪問するには本城陸上競技場が不便な場所にあることを表しており、結果的にこの不便さが前述のように観戦回数減少の要因ともなっている。この深刻な問題は、北九州スタジアムへの本拠地移転によってほぼ解消されることが見込まれる。

## 7 ギラヴァンツに対する愛着

全回答者に対し、ギラヴァンツへの愛着を感じるかどうか4段階で尋ねた結果を図7に示す。「やや感じる」が36.6%（前年調査36.6%）で最も多く、6.6%の「大いに感じる」との合計は43.2%（前年調査42.3%）である。2015年と同様、北九州市民の半数以上が、ギラヴァンツに対して愛着を

表6 本城陸上競技場への利用交通手段

選択肢	回答数	構成比	
出発地(自宅など)から、徒歩のみ	11	6.8%	
本城陸上競技場の駐輪場まで自転車・オートバイを利用	12	7.4%	
本城陸上競技場の駐車場まで自家用車(家族・知人の車なども含む)を利用	94	58.0%	自家用車利用 72.8%
若松競艇場臨時駐車場まで自家用車(家族・知人の車なども含む)で行き、そこから無料送迎バスを利用	24	14.8%	
折尾駅からシャトルバスを利用	5	3.1%	
黒崎駅からシャトルバスを利用	6	3.7%	
小倉駅からバスを利用	1	0.6%	
タクシーを利用	0	0.0%	
貸切バスを利用	4	2.5%	
その他	5	3.1%	
合計	162	100.0%	

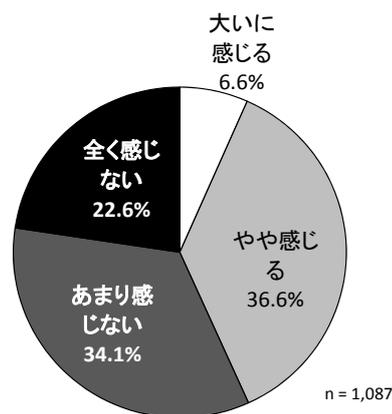


図7 ギラヴァンツに対する愛着

「あまり感じない」あるいは「全く感じない」状況であり、ギラヴァンツの地域への浸透が不十分であることの表れと評価せざるをえず、大きな課題と言える。

## 8 今後のスタジアム観戦意向

「あなたは今後（2016年3月以降）、ギラヴァンツ北九州の試合をスタジアムで観戦することについて、どのようにお考えですか。お気持ちに当てはまるものをお答えください。」との択一式質問に対し、「ぜひスタジアムで観戦したい」とする回答は9.9%、「きっかけがあればスタジアムで観戦するかもしれない」とする回答は41.4%となっており、2015年調査と比較するとそれぞれ微増している（図8）。Jリーグに加盟した2010年、前年に大きく成績が飛躍した2012年調査と比較すると観戦に前向きな回答率は低いが、2013年調査からは改善傾向が見られる。

ただし、「今のところはスタジアムで観戦するつもりはない」とする回答者が約50%存在することは、ギラヴァンツの地域への浸透活動がより一層必要な状況を表している。

今後のスタジアム観戦意向について属性別及び主な回答別に集計した結果を図9に示す。

応援クラブ別でみると、ギラヴァンツ北九州を応援している人は「ぜひスタジアムで観戦したい」は26.7%にとどまっているものの、「きっかけがあればスタジアムで観戦するかもしれない」が62.5%となっており、全般に観戦意欲は高い。きっかけの提供が集客増に向けて重要と言えよう。応援しているJクラブが無い回答者は、観戦意向の無い人が69.3%を占める。

スタジアム観戦経験別に見ると、これまでにスタジアムで観戦したことがある人については、44.4%が「ぜひスタジアムで観戦したい」と回答している。

ギラヴァンツへの愛着別に見ると、愛着が高いほど観戦意向は強い。

居住地、性別、年齢別では特に大きな差はないが、若松区東部では観戦意向が目立って強い。これは若松区出身の本山雅志選手、刀根亮輔選手が2016年からギラヴァンツに移籍してきたことがプラスに作用している可能性がある。なお、年齢別では10代、30代以上で観戦意向が低い。

集客に苦戦しているギラヴァンツにとっては、観戦意向に関するこうした現状を踏まえながら、効果的な集客戦略を講じていく必要がある。

### 9 スタジアム観戦意向の無い理由

今後のスタジアム観戦意向について「今のところはスタジアムで観戦するつもりはない」と回答した529サンプルに対し、その理由を3つまで複数回答可として選択式で回答を求めた結果を図10に示す。同図では、2015年調査における同様の設問結果も比較する形で示す。

2016年調査で突出して多いのは「サッカーに関心がないから」であり、65.4%が選択している。次いで多いのは「ギラヴァンツの選手のことをよく知らないから」であり、25.9%となっている。この2項目が目立って多く、それ以外としては回答率10%程度で「サッカーには関心はあるが、J2に関心がないから」、「現在のスタジアム（本城陸上競技場）が不便だから」、「スタジアムに行っても楽しくないから」、「試合がある日は、仕事・家事等で時間的余裕がないから」、「特に理由はない」等となっている。

2016年調査と2015年調査を比較すると、ほ

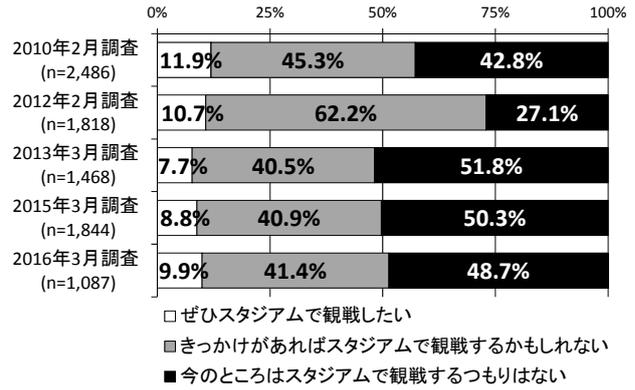


図8 「今後のスタジアム観戦意向」経年変化

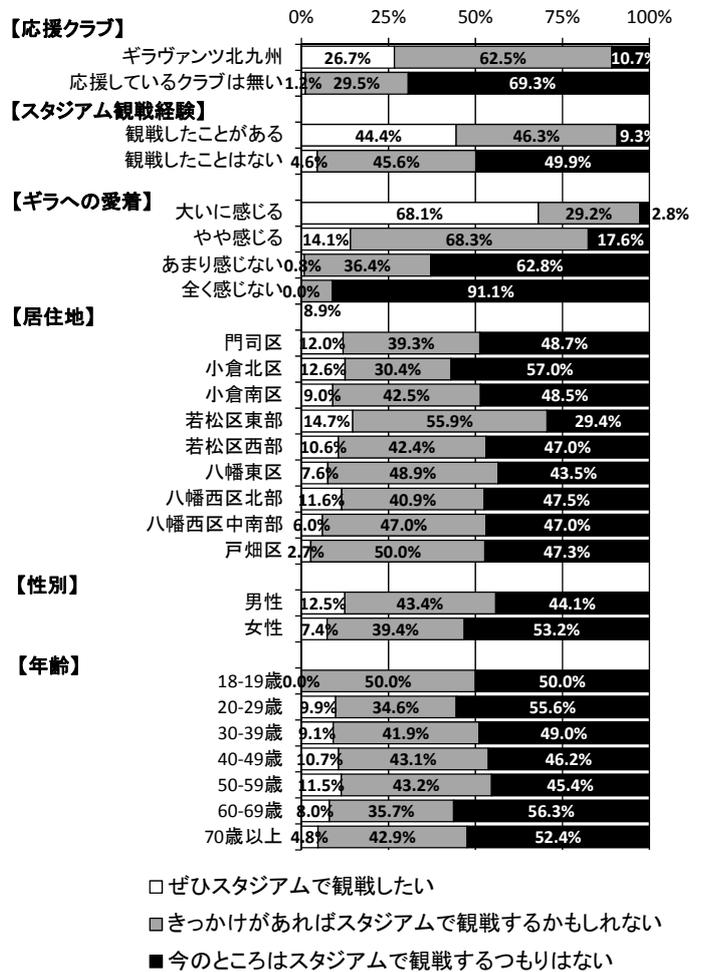


図9 「今後のスタジアム観戦意向」属性別集計

ぼ同様の回答傾向となっている。なお、2016年調査においては新たに選択肢を1つ追加した。その選択肢「ギラヴァンツは弱いと思うから」は8.7%が回答しており、比較的回答率は低い。

サッカーへの関心の無い層に対し、ギラヴァンツの試合観戦のメリットや意義を分かりやすく伝え、親しみを持ってもらうような取り組みが

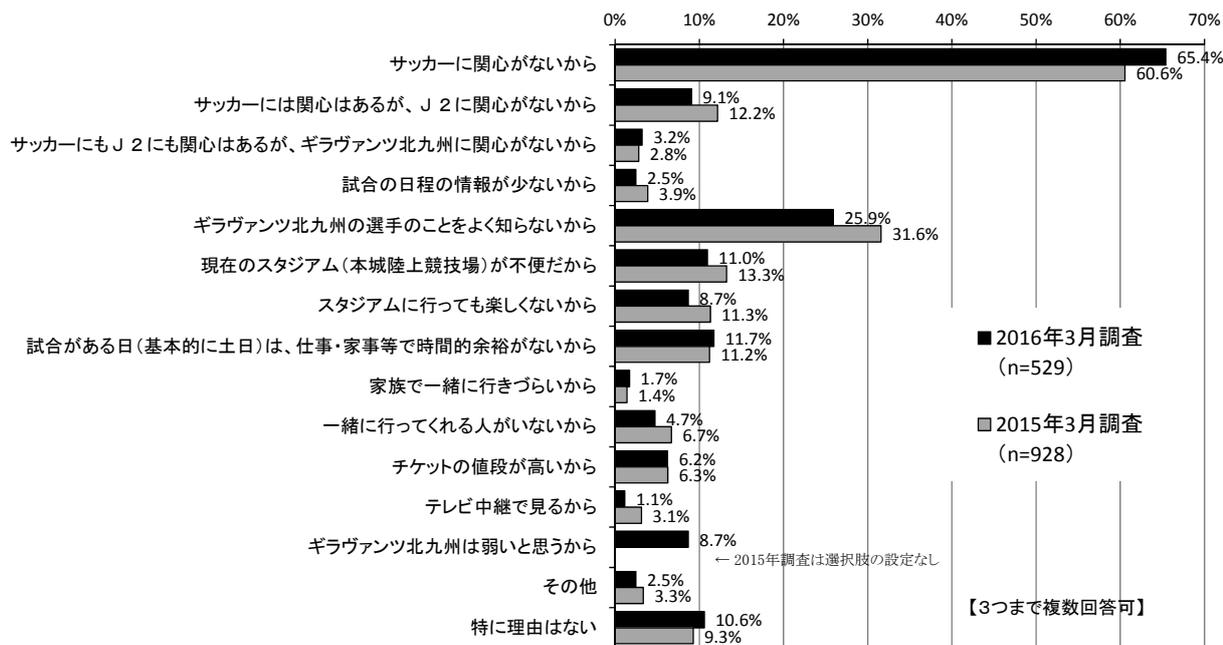


図 10 スタジアム観戦意向の無い理由

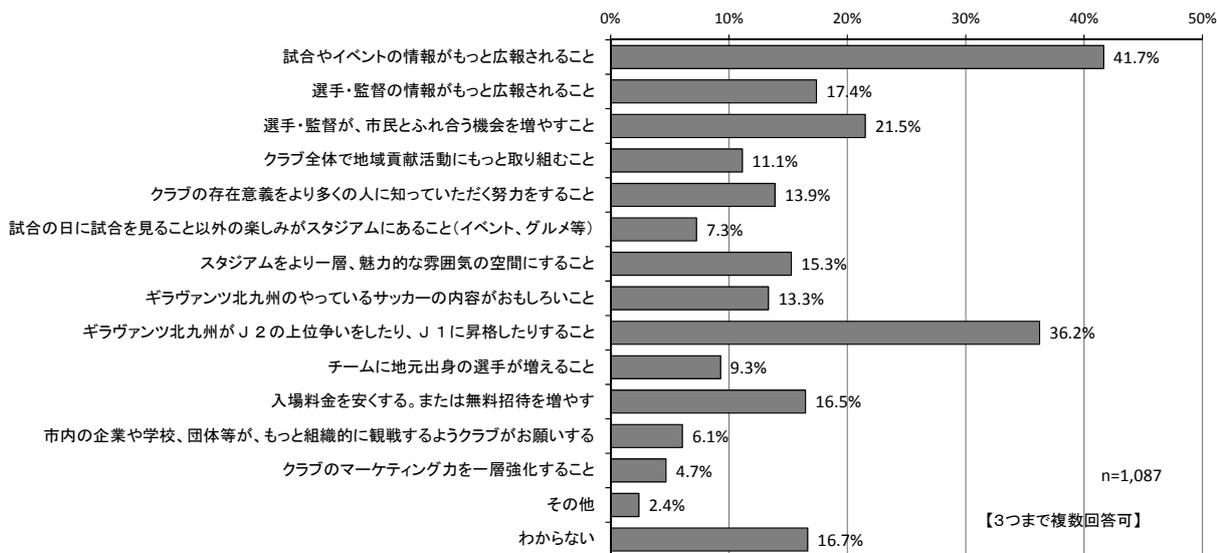


図 11 観戦者を増やすために必要と考えること

求められていると言えよう。その取り組みはクラブが主体的に行うことが最も重要であるが、サポーターや様々な地域の団体等が一体となって取り組んでいく必要がある。

#### 10 観戦者を増やすために必要と考えること

全回答者に対し、「ギラヴァンツ北九州の試合を観戦する人を増やすため必要だと考えることについて、主なものを3つまで選んでください。」として回答を求めた結果を図 11 に示す。

特に回答が多いのは、「試合やイベントの情報がもっと広報されること」(41.7%)と「ギラヴァンツがJ 2の上位争いをしたり、J 1に昇格したりすること」(36.2%)である。この2項目が多い結果は、過去の調査結果と同様である。ギラヴァンツに関心の無い市民も含め、特に関心の高い事項と言えよう。

次いで「選手・監督が、市民とふれ合う機会を増やすこと」(21.5%)、「選手・監督の情報がもっと広報されること」(17.4%)、「入場料金を安くす

る。または無料招待を増やす(16.5%)、「スタジアムをより一層、魅力的な雰囲気の空間にする(15.3%)」等が多くなっている。

広報、チーム強化、地域貢献活動(ホームタウン活動)、試合運営などの総合的な取り組み強化がギラヴァンツには求められている。

なお、本設問については2016年調査から選択肢の一部を入れ替えたが、追加した設問の中では「入場料金を安くする。または無料招待を増やす」が最も回答率が高く、次いで「クラブの存在意義をより多くの人に知っていただく努力をすること(13.9%)」となっている。チケット料金や招待事業への関心は比較的高いと言え、その有効な運用について一層検討を進めて、実行していくことが必要である。

### 1.1 期待する地域貢献活動

全回答者に対し、「あなたは、ギラヴァンツ北九州がどのような地域貢献活動をすることを期待しますか。」として3つまで複数回答可で回答を求めた結果を図12に示す。

回答が多いのは「地元サッカーチームや中学、高校の部活動への指導者派遣(32.6%)」、「わっしょい百万夏まつりなどの大規模なイベントへの参加(31.8%)」、「選手やコーチによる学校訪問(27.8%)」、「地域の祭りやイベント等への参加(25.9%)」、「各種スポーツ大会やスポーツイベントの開催(25.7%)」となっている。この結果については2015年調査と概ね同じであり、市民からの要望に大きな変化は無い。

期待する活動として挙げられたものについて

は、近年にギラヴァンツ北九州が地域貢献(ホームタウン)活動として取り組んでいるメニューであり、取り組みの方向性は正しいと評価できるが、その取り組みが十分浸透していない可能性も指摘できる。今後、これらの取り組みの一層の充実が求められる。

### 1.2 新しい北九州スタジアムへの期待

全回答者に対し、「ギラヴァンツ北九州の新たなホームスタジアムとなる、北九州スタジアム(2017年3月オープン予定。JR小倉駅北約500mの場所。)について、あなたが特に期待することは何ですか。」として3つまで複数回答可で回答を求めた結果を図13に示す。

回答が特に多いのは、「サッカー以外に、コンサートやイベントなどが多く開催されること(45.5%)」と「観客席に屋根が設置されるなど、快適な観戦環境が整うこと(39.1%)」、「球技場として、観客席とグラウンドが近いなど、臨場感溢れる観戦環境が整うこと(32.5%)」であり、その実現が強く期待されている項目と言える。この回答傾向は2015年調査と同様である。

次いで回答率20%台の項目として、「試合前後にスタジアムグルメが楽しめること(25.4%)」、「スタジアムの活用により北九州市への観光客増加につながること(20.6%)」となっており、これらについても北九州スタジアムの整備および整備後の取り組みによって実現していくことが重要な課題と言えよう。

こうした回答において特に注目すべきは、サッカー以外での多目的な利用(コンサートやイベン

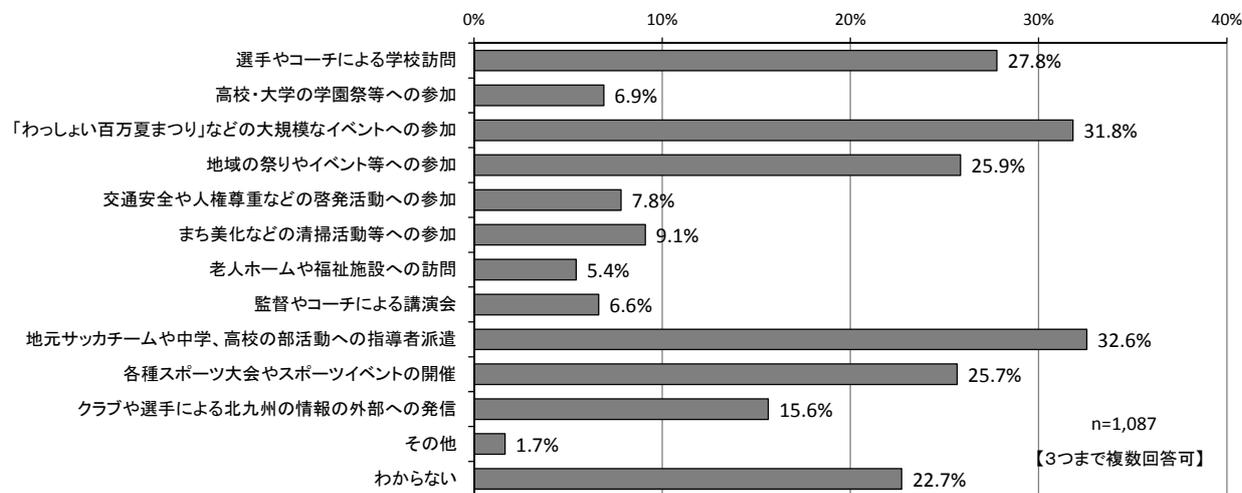


図12 期待する地域貢献活動

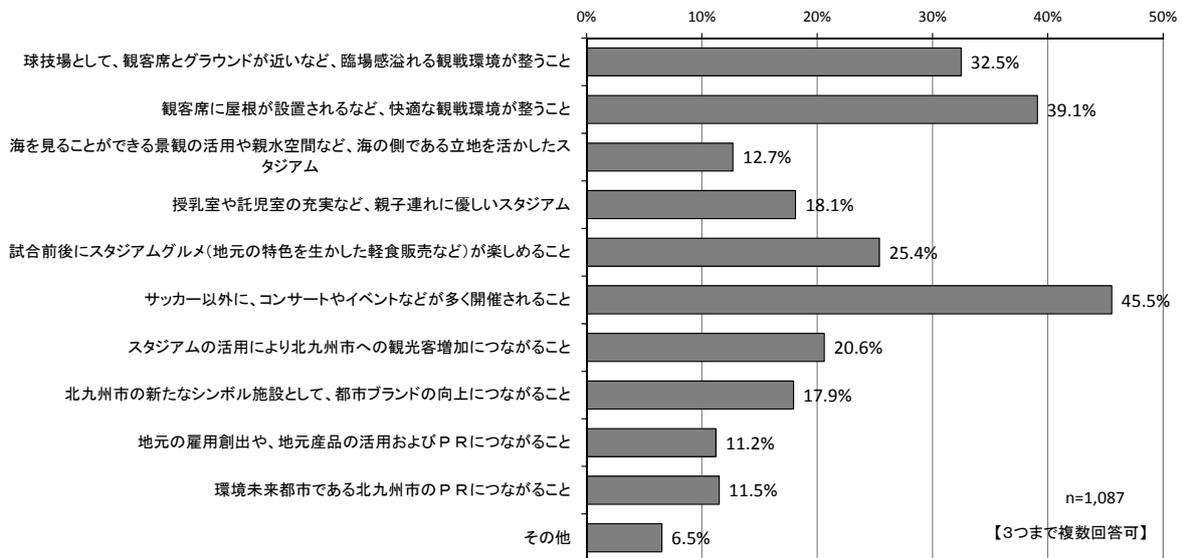


図 13 新スタジアムへの期待

トへのニーズが高い点である。もとより北九州スタジアムは、整備に際しての1番目のコンセプトに「みんながつどい、にぎわいを生む“海ちか・街なか”スタジアム」を掲げており、スポーツを中心に様々なイベントを行うことで周辺地域を含めた「まちのにぎわい」の創出を重視している。実際にコンサート等で天然芝のグラウンドを使用するには様々な制約もあるが、それらを可能な限り解決し、多様な用途でスタジアムを使用することが特に重要と言えよう。

なお、これらの取り組みはギラヴァンツではなく、スタジアム設置者である北九州市と、PFI事業者である(株)ウインドシップ北九州が中心となり、ギラヴァンツも含めた地域の様々な団体や市民が協力して取り組んでいくことが不可欠である。北九州スタジアムは2015年4月に着工し2017年春から供用開始予定であるが、供用開始に向け、早期に地域一体となった推進体制を構築する必要がある。南(2015a)でも指摘したように、特に、Jリーグの試合開催以外の多様な用途の実現、あるいはスタジアムに訪れた来訪者が市内の商店街や観光地で消費活動を行うことによる経済効果の導出に向けた検討および行動が急務である。

### 1.3 北九州スタジアムへの想定利用交通手段

「仮に、北九州スタジアム(JR小倉駅北約500mの場所。北九州国際会議場の隣。)をあなたが利用するとします。その際、主な利用予定交通手段について、最も当てはまる(よく利用するである

表 7 北九州スタジアムへの想定利用交通手段

選択肢	回答数	構成比
出発地(自宅など)から、徒歩のみ	41	3.8%
スタジアム近くまで自転車・オートバイを利用	32	2.9%
スタジアム近くまで自家用車(家族・知人の車なども含む)を利用し、有料駐車場に駐車	324	29.8%
JRで小倉駅まで行き、そこから徒歩	373	34.3%
路線バスやモノレールで小倉駅周辺まで行き、そこから徒歩	194	17.8%
タクシーを利用	6	0.6%
その他の交通手段	8	0.7%
わからない	109	10.0%

う)ものを一つ選んでください。なお、北九州スタジアム敷地内には、一般用の駐車場はありません。」と尋ねた結果を表7に示す。

最も多いのは「JRで小倉駅まで行き、そこから徒歩」(34.3%)であり、「路線バスやモノレールで小倉駅周辺まで行き、そこから徒歩」(17.8%)も合わせると、過半数が公共交通機関を利用して小倉駅経由で北九州スタジアムに向かうことが期待される。これは、CO2削減や小倉駅周辺のにぎわい創出に北九州スタジアムが寄与する可能性が高いことを立証する結果と言えよう。

一方、2番目に多いのは「スタジアム近くまで自家用車(家族・知人の車なども含む)を利用し、有料駐車場に駐車」で29.8%である。現在の本城陸上競技場へのアクセスで自家用車は70%以上に利用されている結果(表6)を踏まえると大幅に減少が見込まれる。ただし約30%が自家用車で来訪希望があるということは、スタジアム周辺で駐車場不足や渋滞が発生する可能性も示唆しており、わかりやすい民間駐車場案内表示の設置などの工夫が必要と言えよう。

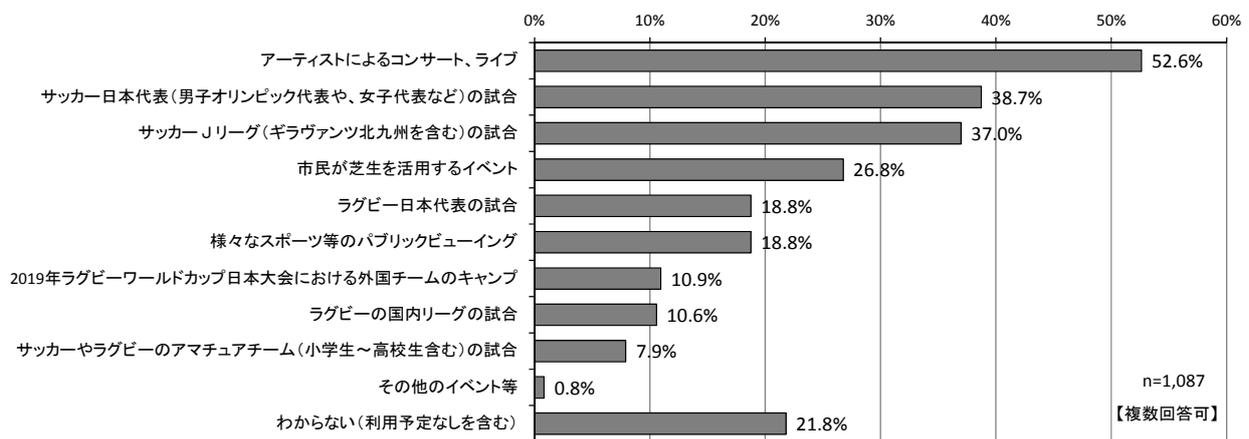


図 14 北九州スタジアムでの希望イベント等

#### 1.4 北九州スタジアムでの希望イベント等

「あなたは北九州スタジアムで開かれるイベントについて、どのような内容のものであれば観戦・利用に訪れたいとお考えですか。当てはまるものをいくつかもお答えください。」と尋ねた結果を図 14 に示す。

最も多いのは「アーティストによるコンサート、ライブ」であり、52.6%となっている。図 13 の結果でも見たように、コンサートやライブ系のイベントへのニーズは非常に高いと言えよう。

次いで多いのは「サッカー日本代表(男子オリンピック代表や、女子代表など)の試合」(38.7%)、「サッカーJリーグ(ギラヴァンツ北九州を含む)の試合」(37.0%)と、サッカーでの利用が上位となっている。次いで「市民が芝生を活用するイベント」も 26.8%と比較的多くなっている。市民に開放するイベントに対するニーズも高い。

なお、この結果でニーズが低いイベント等についても、その意義を周知すること等で市民からの開催要望が高まることも考えられる。スタジアムは様々な興行や市民利用が可能であり、今後の具体的な誘致活動等が期待される。

#### IV おわりに

ギラヴァンツあるいは北九州スタジアムに関する市民ニーズの把握は今後も北九州市にとって重要な政策テーマであると考えられるため、今後も継続的に調査を行い、市民ニーズの分析等を行っていくことが必要である。

#### 注

1) 結果については、南(2015a)、南(2013)、南(2012)、南ほか(2010)を参照。

- 筆者による一連のギラヴァンツに関する市民意識調査は、当該年シーズンにおけるクラブ経営や行政による支援策に反映できることを意図して、シーズン開幕時期に実施している。そのため、過年度と同様、調査実施時期と本稿とりまとめ時期が重複しており、本稿においても比較的単純な集計と考察にとどまっている点に留意されたい。また、とりまとめ方法や記述の方向性等については、経年比較を行いやすくする観点から南(2015a)を踏襲し、データを2016年調査に更新し考察し直す形としている。
- 2012年2月調査、2013年3月調査、2015年3月調査においては、選択肢を「ギラヴァンツのみ」、「ギラヴァンツとアビスパ」、「応援クラブなし」等といった形で立てて択一式で回答を求めたが、2016年3月調査では、北九州近隣のJクラブ名および「応援クラブなし」を選択肢として複数回答式で求める設問へと形式変更した。こうした設問変更があった前提で、可能な形で比較している。

#### 参考文献

- 南博(2015a)「2015年シーズン開幕直前のギラヴァンツ北九州に対する市民意識」、北九州市立大学都市政策研究所『北九州における集客イベントの効果と展望』、pp.59-67.
- 南博(2015b)「ギラヴァンツ北九州の2014年スタジアム観戦者の現状分析」、北九州市立大学都市政策研究所『北九州における集客イベントの効果と展望』、pp.45-58.
- 南博(2013)「2013年シーズン当初のギラヴァンツ北九州に対する市民意識調査速報」、北九州市立大学都市政策研究所『北九州における「集客」の現状と課題～ギラヴァンツ北九州、B-1 グランプリ in 北九州～』、pp.29-38.
- 南博(2012)「Jリーグ加盟3年目を迎えるギラヴァンツ北九州に関する市民意識分析」、北九州市立大学都市政策研究所『2011年度におけるギラヴァンツ北九州に関する調査研究』、pp.11-21.
- 南博・神山和久・片岡寛之(2010)「Jリーグ加盟当初のギラヴァンツ北九州に関する市民意識分析」、北九州市立大学都市政策研究所『スポーツを通じた地域活性化に関する基礎的研究』、pp.37-48.

## [活動記録]

### 「北九州スタジアムを拠点とした魅力あるまちづくりシンポジウム」開催記録

#### 1. 開催概要

日時： 2015年8月16日（日） 15:30～17:00

会場： 北九州国際会議場メインホール（北九州市小倉北区浅野3-9-30）

主催： 北九州市立大学 都市政策研究所 【※開催当時の名称。以下同様】

共催： 北九州市

後援： 北九州商工会議所、北九州スタジアム応援団、(株)ウインドシップ北九州

定員： 500人（事前申込不要。当日先着順）、入場無料

当日来場者数： 約300人

スケジュール：

15:00 開場

15:30 開会

挨拶： 北九州市立大学副学長・都市政策研究所長 柳井 雅人

15:30～15:45 北九州スタジアム事業概要説明

講師： 北九州市建築都市局 建築部長 村上 純一 氏

15:45～16:50 パネルディスカッション「北九州スタジアムを拠点とした魅力あるまちづくり」

パネリスト： 小倉中央商業連合会 南北連携部会長 禱 峰晴 氏

小倉駅新幹線口地区振興連絡会会員 竹之内 豊文 氏（リーガロイヤルホテル小倉 支配人 営業部長）

日本政策投資銀行 地域企画部課長 久間 敬介 氏

ジャーナリスト 吉崎 エイジーニョ 氏

北九州市立大学 地域創生学群3年 野瀬 瑠美

コーディネータ： 北九州市立大学 都市政策研究所准教授 南 博

16:50 閉会

※17:00～18:00 ギラヴァンツ北九州ファン感謝祭

#### 2. シンポジウム内容

##### (1) 開会

###### ■司会：

それでは定刻となりましたのでただ今より北九州市立大学都市政策研究所主催「北九州スタジアムを拠点とした魅力あるまちづくりシンポジウム」を開会致します。私は本日の司会を務めさせていただきます、上田恵子と申します、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、主催者を代表いたしまして、北九州市立大学の柳井雅人副学長よりご挨拶申し上げます。

■北九州市立大学副学長・都市政策研究所長 柳井 雅人：

柳井でございます。シンポジウムの方でしっかり議論したいということですので、私のこの挨拶は1分以内にしなさいよ、と命令されております。

北九州スタジアムは 2017 年供用開始ということで、この会場の隣を見てみますと、もう土台ができ上がっているような状況になっております。このスタジアムは海に面した都市型の非常に素晴らしいスタジアムになる予定でございます。スタジアムは単なる箱モノではなくて、今日議論しますように市にとっては宝物にこれからなっていくという宿命を背負っております。そしてギラヴァンツはJ1で大活躍するように宿命を背負っているわけです。

私たちは、こういったことが可能になるように、今日しっかり議論をして、そこにあります課題、問題点、それから長所短所、こういったものをより良い方向にもっていけるように議論を深めながら、それを活かしてギラヴァンツや北九州スタジアムを応援していきたいというふうに考えておりますので、ぜひ最後までお付き合い願えればと思います。

今日はどうぞよろしくお願い致します。



写真1 柳井雅人副学長

■司会：

ありがとうございました。

(2) 北九州スタジアム事業概要説明

■司会：

続きまして「北九州スタジアム事業概要説明」に移ります。講師は、北九州市建築都市局建築部長の村上純一様です。それでは村上様よろしくお願ひ致します。皆様、拍手でお迎へください。

■北九州市建築都市局 建築部長 村上 純一 氏：

皆さん、こんにちは。北九州市役所の建築部長をしています、村上と申します。よろしくお願ひします。

自分はこのスタジアム建設の責任者です。過去5年間、このスタジアムに関わった仕事をずっとやってまいりました。ようやく計画、設計それから工事までできました。

今日は、皆様方にスタジアムについてのお話をさせていただきますけれども、お配りしておりますA3両面印刷の資料があります。この中にポイントは書いてあります。本日ご来場の皆さんは、ほぼ基礎情報を概ねご存知かと思っておりますので、今日は3つほど柱を決めてお話しします。

1つ目は観客からの視点、「観る」スタジアムです。それから2つ目は「する」という視点、プレイヤーからのスタジアムという視点です。それから3つ目は「北九州市にとってのスタジアム」という切り口で、3本立てでお話ししようかと思っております。私どもがいつもスローガンとし

て掲げています、「市民に夢と感動を！」「子どもに元気と目標を！」「まちに誇りとにぎわいを！」。この3つに凝縮された内容でスタジアムを造り、街に貢献できればと考えて仕事をしているところです。

では、まず概要説明に入ります。詳しい内容は先ほど申しましたように配布資料をご覧くださいと思います。まずはおさらいです。建設場所はもうご存知のとおり、この国際会議場のすぐ北側、隣になります。施設の概要は、1万5千人収容のスタジアム、JリーグのJ1基準を満たし、それからラグビーのトップリーグも開催できる、そういった内容に仕上げていきます。将来的に海側にバックスタンドを増設しますと2万人以上の規模になるかと思っています。設計建設費は99億円です。民活を導入して、今回は建設と維持管理・運営をするという、PFI手法という方式で行います。

特徴は3つ。「海ちか、街なか」。海に近く、また街に近く街なかだ、というスタジアムです。それから「ダイナミック、迫力を感じられるスタジアム」。それから、北九州の特性でありますエコなスタジアム。この3つをベースに、今、工事を進めています。

スケジュールは、平成27年4月に着工しまして、杭工事はほとんど終わってこれから地上の工事に入ります。NHKや民放のお天気カメラを見ていただいて、たまに関門海峡の方にカメラが向くと、じわじわとスタジアムが立ち上がってくるのが今後わかってくるかと思っています。コンパクトですけども観客が観やすく、そして選手がプレーしやすい、そういったスタジアムを目指しております。

では、施設の特徴についてお話しします。まずは「観る」という視点、観客という視点です。この図をご覧ください（注：以下、画像を用いながらの説明）。この国際会議場のちょうど北隣になります。メインの入口はこちらになります。ここからお客さんが入ってきます。もう一つ、南東



写真2 村上純一氏による北九州スタジアム事業概要説明

側、海沿いからも入れるようになります。まず、ホーム側のスタンドは南側スタンドです。アウェイ側のスタンドは北側になります。それから、メインスタンドは西側、バックスタンドは東側になります。形をパッと見ると、芝生、ピッチを囲むように4つのスタンドが独立しているということで、ヨーロッパ型、イングランド型の形になっております。それからメインスタンドには一般観客席と、3階部分に特別席も設けております。

本城陸上競技場と比べてみたいと思います。本城陸上競技場は、ピッチの周囲に陸上トラックがあるので、観客席とピッチの距離が随分あります。新しいスタジアムはトラックがありません。4面どこでもスタンドとラインの間を8メートルで設計をしていますので、非常に近いです。選手の息づかいが伝わってくるような、それぐらいの距離感になります。

それからトイレについてです。本城陸上競技場のトイレは「ちょっとどうかな」というお話もありますので、数を増やしています、特に女性向けのトイレを充実するようにしております。

次に、大型映像装置です。本城陸上競技場にはありません。新しいスタジアムでは、ゴールシーンなどのリプレイに使えますし、試合開始前も楽しい映像をずっと流すことができるようになります。これは縦7mで横が10mあります。今使っているこの会場のこのスクリーンは縦6mで横10mですので、もう1mくらい大きいサイズになります。これくらいあると反対側スタンドからでも見える、という大きさを設定しております。

売店は1階部分と2階部分に配置しております。

一点、大事なお話があります。実はこのスタジアムには観客用の駐車場はありません。これも以前から申している通りです。小倉駅までぜひ公共交通機関で来ていただいて、小倉駅から歩いてきていただきたいと思います。試合前は色々なスタジアムグルメとかもありますので楽しんでいただいて、試合が終わったら小倉駅方面にまた歩いて行っていただきたいのです。ただし、小倉駅ですぐ電車に乗る、バスに乗るのではなくて、ぜひ小倉の街に出かけて、食べ物を食べたり、お買い物をしたり、そういった時間の使い方を是非お願いしたいと思っております。

座席にも工夫を凝らしております。この写真は広島市民球場（Mazda Zoom-Zoom スタジアム広島）ですが、北九州スタジアムでも色々工夫を凝らしていますので、楽しみにしていただきたいと思います。

続いて、プレーする選手の視点でちょっとお話をします。この写真はスタジアムの模型です。今日はホールを出たところに展示していますが、この写真はその模型でセンターサークルからメインスタンド側に向けて撮っています。選手の出口は1階中央になります。その両側にチームのベンチがあります。そして観客席が1階席、2階席とあって、その上の3階に特別席、例えば中央付近はVIPルームなどになります。上にいくとまた観客席があります。そして4階席にテレビとかのカメラマンが並び、5階席に放送室。そして警察や消防の方が上から安全を確かめるスペースになります。1階の観客席は、見ていただいたとおり非常にピッチから近いうえに、大きな壁の上に座席があるわけではなく、非常に低い位置、低い目線で観ることができるように設定しています。

この観客席の下に、運営本部や記者会見室、選手の控室といったものがあります。この写真は選手の控室ですが、長野市の南長野運動公園総合球技場の写真になります。こういった選手の控室は、右左に1チームずつ選手が入りますが、1チームあたりロッカーを30個整えています。これはサッカー、ラグビー、それからグランドゴルフとか色々ありますので、一応30個用意してあ

ります。例えば、高校サッカーの大会で2試合連続して行う場合は、真ん中を壁で半分に仕切れますので、トータル4チームが使えるといった造りにしております。

続いてウォームアップルームです。これも屋内に収めています。人工芝でコンクリートの壁ですが、この中で選手がアップをすることになります。

また模型の写真に戻ります。これがゴールで、これが観客席です。8m ということで、手が届く感じの距離感になります。ずーっと座席を上がっていくと2層になっています。これくらい近い距離で応援ができるということは、選手も一生懸命やろうと考えると思います。

この写真は再び南長野ですが、スプリンクラーを配置しています。北九州も配置します。よく市民の方々に説明をすると、「海の近くだから芝が傷むのではないか」という質問をよく受けます。このスプリンクラーで潮風が飛んでくると洗い流す、あるいはホースで洗い流す、ということで芝枯れを防ぐことが可能だそうです。

それからもう一つよく受ける質問が、バックスタンドが2層になっていないことについてです。1層なので「ボールを蹴ると海に飛び出るのではないか」という質問もよく受けます。飛び出ます。たまに飛び出ます。それで良いじゃないですか、という気持ちです。逆に、そういったものを「売り」にできればよいと思っています。以前、大リーグのサンフランシスコジャイアンツでバリー・ボンズという左利きのホームランバッターが打つと場外の海に飛び込んで、舟がバーツと寄ってボールを取っていた光景が思い浮かびます。海の方に飛び込んでも良いじゃないか、という気持ちで私はおります。スタジアムができ上がりますと、最初に点を取るの誰か、ということが楽しみですし、今申したように海にボールと飛び出るボールを蹴るのは誰だろうか、ということも楽しみです。私は、ギラヴァンツだったら多分ディフェンダーの宮本さんかなあ、と思っています。

さて、「北九州市にとってのスタジアム」という点に触れたいと思います。新幹線の停まる小倉駅があります。そして海側に、あるある City、リーガロイヤルホテル小倉、西日本総合展示場、北九州国際会議場、そして建設中の北九州スタジアムというように、施設が集まっています。小倉駅新幹線口をにぎやかにする方針で、1年間で300万人のお客様を集めましょうという動きを現在行っています。この地域全体を更に魅力的にするという視点で、スタジアムの西側に民間の空地があります。これを市が買い受けて公園整備をしようと思っています。日頃はスケボーとかストリートダンスといったことができます。それからスタジアムでイベントがありますと、例えばケータリングカーをここに持ってくるとか、あるいは子ども用のフワフワ遊具を設置して遊べるという使い方が、この場所でできるのではないかと思います。これからこの仕事を進めていこうと思っています。そして



写真3 村上純一氏

タコマ通りに横断歩道橋を掛けようと思います。幅 8m です。相当広い歩道橋を掛けて、ここから渡ってもらい、渡りますとスタジアムにコンコースがずっとありますので、スタジアム内をあちこち周ることができます。それから、海側は今ちょっと殺風景ですが、ここも海辺の魅力を感じながら散策できる空間をスタジアム建設のタイミングに併せて整備するというように、全体的な魅力をアップしようと考えて、設計作業とか用地取得とかを現在行っているところです。

新幹線で本州から関門海峡をくぐって小倉の街に出てきますと、右手にこうしたものが見えてくるようになります。「ああ、小倉に帰ってきたね」と感じてもらえるような、そんなシンボリックなものになればよいと思う次第です。

それから、先ほどは平面図的な地図でしたけども航空写真でスタジアム周辺を示します。小倉駅、あるある City、リーガロイヤルホテル小倉、西日本総合展示場、北九州国際会議場、北九州スタジアム、あさの汐風公園。ここ全体で 300 万人くらいを 1 年間に集めましょうということです。あるある City は皆さんご存知のとおりサブカルチャーの大型施設で、年間に二百数十万の若い人が集まって来ている状況ですから、ここに来ている若い人が周りを色々と散策するように魅力を高めるということも大事だと思いますし、それからあさの汐風公園は、普段は公園ですが、3 年前は B-1 グランプリの会場にもなったように食のイベント等が開催できます。西日本総合展示場は、今は恐竜展みたいなイベント（注：巨大いきもの大冒険!!メガユーマ北九州）をやっていますが、この大きな空間を使って色々なイベントができます。今年の 10 月には東京ガールズコレクションが北九州で初めて開催される予定です。ファッションショーがあり、タレントの山田優さんもゲストで来られるということです。10 月 17 日に西日本総合展示場新館で開催されます。チケットが販売されていますので、興味のある方はぜひご覧になられたらと思います。

次に、スタジアムの活用事例についてです。スポーツイベントもさることながら、スポーツ以外の活用を色々と他のスタジアムでも皆さん知恵を出してやっておられますので、我々も是非そうしたいと思っています。それから、スポーツという点でいきますと、大規模な大会の誘致を、今、民間の方とも力を合わせて一生懸命やっているところです。特に、皆さんご存知のとおり、世界的なスポーツ大会が 2019 年と 2020 年に日本にやってまいります。ラグビーワールドカップの開催地は全国に散らばっています。それから東京で行われるオリンピック、パラリンピック。このキャンプ地誘致ということに、今、力を注いでいます。ぜひ北九州市全体でおもてなしできるようにになればよいと思います。色々な運動施設もありますし、今回こういったスタジアムもできあがりますので、ぜひキャンプ地に手を挙げて誘致をしたい。そうすれば、全世界に色々な情報発信ができますので、ぜひ市民の皆さん方のご協力もいただきたいと思います。

最後になります。スタジアム完成までの取組みです。完成までもうあと 1 年半となりました。スタジアムをどう使うかは、先ほどから述べているように、スポーツやそれ以外のイベントをスタジアムの中で行うわけです。そして周辺も合わせて 300 万人の人が小倉駅新幹線口に集まるようになります。できればその 300 万人が、小倉駅を渡って小倉城口側にもぜひ行ってもらいたいと思います。スタジアム、新幹線口、小倉都心部全体と広がるにぎわいの仕組みづくり、人の流れを是非つくりたいと思っています。これは掛け声だけではなかなか難しいので、まちづくり団体や商業団体の皆さんと一体となった取組みが大事だと思います。

私は今、こうやって建設の仕事に携わっており、あと 1 年半経ったらでき上がりますが、「できたら終わり」というわけではありません。そこから先のこともしっかり考えて、今から準備をし

たいと思っています。皆様方のお力添えをいただいて、ぜひ良いスタジアムに仕上げたいと思っていますので、ご協力をお願いしたいと思います。

以上で説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

#### ■司会

村上様ありがとうございました。今一度大きな拍手をお願いいたします。

それではパネルディスカッションに向けて壇上の準備を行いますので、少しの間そのままお待ちください。

### (3) パネルディスカッション「北九州スタジアムを拠点とした魅力あるまちづくり」

#### ■司会

大変長らくお待たせしました。ただ今よりパネルディスカッションを行います。

登壇者をご紹介します。パネリストのご略歴につきましては、お手元の配布資料の「登壇者紹介」に記載させていただいておりますので、ここではお名前のみのご紹介とさせていただきます。

皆様から向かって右側より、小倉中央商業連合会南北連携部会長、禰峰晴さん。小倉駅新幹線口地区振興連絡会、竹之内豊文さん。日本政策投資銀行、久間敬介さん。ジャーナリスト、吉崎エイジーニョさん。北九州市立大学地域創生学群、野瀬瑠美さん。最後にコーディネータの北九州市立大学都市政策研究所、南博准教授です。

それでは以降の進行はコーディネータが行います。

#### ■北九州市立大学都市政策研究所 准教授 南 博：

皆さま、お盆の日曜日という大変お忙しい中、あるいはゆっくり過ごされたい中、本日のシンポジウムにお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

先ほどの村上部長からのスタジアム事業概要の説明を受けまして、このパネルディスカッションでは、「いかにスタジアムを魅力あるものとしていくか」、あるいは「まちづくりに活用していくか」ということについて、議論を深めていきたいと思っております。

皆様から向かってステージ右側の画面に、お手元に配布している資料「北九州市『都心集客アクションプラン』」を映しています。この内容については、先ほどの村上部長の説明の最後の方で述べられた中身と重なりますので詳細については省略しますが、小倉駅の北側のエリアと南側のエリア、つまり魚町や京町あるいはそこから更に広がるエリアの間に、いかに北九州スタジアムの来場者が周遊するかといったようなことを、市としても政策的に取り組んでいるわけです。

こうしたことを踏まえまして、本日の配布資料の「パネルディスカッション補足資料」に、今回のパネルディスカッションの趣旨説明をさせていただいております。北九州スタジアムは、多様な用途での活用によって市内外からスタジアムに多くの人が集まり、集まった人々が街ににぎわいと活力をもたらすことが期待をされています。しかし、黙っていればそうなるということではなく、そうした機能を発揮するためには、私たち市民や企業・団体・行政、それから大学といった地域の色々な主体が一体となって取り組んでいかななくてはならないことが数多くあるのでは



写真4 パネルディスカッションの壇上の様子

ないか、と考えております。そのため、このパネルディスカッションでは、北九州のまちづくりに携わっておられる方々と、国内外のスタジアムを活用したまちづくりに深い知見をお持ちの方々にご登壇いただき、主に二つの論点で話を進めていきたいと思っております。一つがパネリストの皆さんが考えておられる「北九州スタジアムへの期待」です。二つ目が「スタジアムを活用するにあたっての課題や課題解決に向かっての方策」ということで、話を進めていきたいと思っております。

参考までに、補足資料にいくつかグラフを示させていただきます。これは北九州市立大学都市政策研究所で実施させていただいた調査結果の抜粋です。裏面の中ほどに、北九州スタジアムでの観戦前後における北九州市内での経済活動場所に関するアンケート結果を示しています。本城陸上競技場で観戦している方に「新スタジアムができれば、こういったところでお買い物をしたいですか」と質問しました。そうすると、新幹線口エリアと小倉城口エリアのそれぞれで50%くらいの方が買い物活動したいと回答されました。つまり、新幹線口に留まらず幅広いエリアでの消費活動が行われる可能性があると思われます。また、本城では観戦時に経済活動を行っておられない方が多数にのぼりますが、新スタジアムでは「観戦のみを行い観戦前後に消費活動を行わない」という方が非常に少なくなるという結果が出ています。消費活動を喚起して地域経済に大きな効果があるのではないかとすることは、アンケート結果にも表れているわけです。

それでは、パネリストの方からのご発言の方に移りたいと思っております。まず始めに、各パネリストの皆さん方から「自己紹介」と「北九州スタジアムに期待すること」について、一言ずつお話をいただければと思っております。まず、禱様からお願いいたします。

■小倉中央商業連合会 南北連携部会長 禱 峰晴 氏

小倉中央商業連合会南北連携部会部会長の禱でございます。

自己紹介というより、小倉中央商業連合会というのがどういう組織かということをご存知ない方も多いかと思いますので、簡単に説明させていただきます。

皆様をご存じの井筒屋さんやコレットさん、アミュプラザさん、アィム専門店街さん、あるあるシティさんやリバーウォークさん、チャチャタウンさん。このような大型商業施設と、魚町銀天街、京町銀天街、ちゅうぎん通り商店街さん、旦過市場さん、黄金市場さんのような小倉中心市街地にある各商店街がタッグを組んで作っている団体が「小倉中央商業連合会」です。

どんなことをやっているかという、皆様をご存じなのは、例えば「小倉食市食座」という大きなイベントを冬にやっております。また、メンバーには大変働き者が多いので、ストリートダンスコンテストの実行委員会や、もう少しすると行われる「こくらハロウィン」のお手伝いもさせていただいておりますし、イルミネーション等も汗をかいております。このように、小倉の街を盛り上げるために皆でタッグを組んで汗をかいてやっている、これが小倉中央商業連合会と申します。

そして私は、その南北連携部会長、先ほどの村上さんのお話の中にもありましたけれど、駅を挟んで北と南、ここを連携して結んでいって、小倉の街、北九州の街を盛り上げていくという部会長をさせていただいております。本日は色々のご知識のある方がたくさんいらっしゃいますので、その意見を拝聴しながら、また、会場の皆さんの熱い思いを力にして、今後の活動をしていきたいと思っております。

さて、私の北九州スタジアムに対する期待というのは、まず、北九州のイメージアップです。イメージをガラッと変えてほしいと思っております。報道等でよくあるのが、「小倉って怖い」「暗い」というイメージがたくさんございます。このスタジアムを使って、ギラヴァンツさんの快進撃、その他各種イベント開催を通じて、この小倉の街のイメージをガラッと変えるようなスタジアムになっていただければ、というふうに思っております。以上です。

■北九州市立大学都市政策研究所 准教授 南 博：

ありがとうございます。それでは続きまして竹之内さん、お願いします。

■小倉駅新幹線口地区振興連絡会会員 竹之内 豊文 氏 (リーガロイヤルホテル小倉 支配人 営業部長)

小倉駅新幹線口地区振興連絡会に所属しております、竹之内と申します。私は今、ここからすぐ近く見えるリーガロイヤルホテル小倉に勤めております、先ほど村上部長のお話でもありました、駅の北側にランドマーク的に建っている建物です。

今、禱さんからもありましたけれども、南北連携という立場で、新幹線口だけが盛り上がりればよいというわけではなく、いかに駅のこちら側と向こう側が連携するか、ということを常に考えております。今までは、こちらの新幹線口、昔は小倉駅北口と言っておまして、なかなか人が来る方ではなかったです。そんな中、こういった北九州スタジアムができることで、非常に集客が考えられますので、ぜひここで皆で頑張って、北九州全てに良い効果が出るようにしたいと思っております。

スタジアムに期待することは、先ほどのスタジアムの概要説明でありましたように、非常に素晴らしいイングランド型のスタジアム、これは吉崎さんから説明があると思いますけど、非常に良いスタジアムということですので、人が集まることは間違いないと思います。ただ、継続して集まるような、皆が集まりたくなるような場所、「ここに来たら何かがある」というようなスタジアムや小倉駅周辺になればいいと、私は期待しております。

良い議論になることを期待しております、どうぞ宜しくお願い致します。



写真5 竹之内豊文氏、禰峰晴氏

■北九州市立大学都市政策研究所 准教授 南 博：

ありがとうございます。それでは次に野瀬さん、お願いします。

■北九州市立大学 地域創生学群 3年 野瀬 瑠美：

北九州市立大学地域創生学群3年の野瀬と申します。私が在籍している地域創生学群では、実際に地域に出て地域の方達と関わり合いながら、まちづくりというものを、実践を通して学ばせていただいています。

その中で、私が在籍している「キタキュープロモーション」というチームは、もともとは学生のシビックプライドの醸成と向上を目的にして活動していました。北九州の学生が北九州に愛着や誇りを持って、例えば北九州市内で就職したいと思うようになることや、もし市外で就職してしまっても、そこで「北九州ってこんな良い街なんだよ」とか、「こういう学生時代を送ることができた良い所だよ」とか、そういう話をしていって学生一人ひとりが北九州のプロモーションチームになり、魅力を発信していくようになればいいな、と思って活動をしてきました。

そのために、私たちのチームで魅力を発信するようなイベントや、学生同士で語り合うようなイベントをしてきたのですが、そもそも北九州の学生が「北九州のシビックプライド」を感じる、と言うか、「北九州好き！」ってなるのってどういう時かな、と考えたら、もしかしたら「この街だからこそ、できた」とか「この街でめちゃめちゃ充実した学生生活を送れた、送れているな」って実感することが大切なのかなと思いました。そこで、今年度からは色々な大人の方々、

夢を追っている大人の方々や、自分らしく生きている方たちを集めて、インタビューさせていただいたり実際にイベントを設けて学生と対話していただいたりして、学生に何かしら未来に対しての「きっかけ」を届ける、自分が生きることを考えていくような場をつくる活動をしています。

私がこのスタジアムに求めることは、他の方々みたいに専門的なことはわからないのですが、このスタジアムが「北九州人の庭」になればいいな、と思っています。以上です。

■北九州市立大学都市政策研究所 准教授 南 博：

ありがとうございました。続きまして、吉崎さんお願いします。

■ジャーナリスト 吉崎 エイジーニョ 氏：

南先生、ちょっと僕、動いてもいいですか？

■北九州市立大学都市政策研究所 准教授 南 博：

どうぞ。

■ジャーナリスト 吉崎 エイジーニョ 氏：

どうも初めまして、吉崎と申します。吉崎エイジーニョと名乗っておりますが、小倉北区出身の吉崎英治というのが本名です。

配布資料のプロフィールにもあるように、足原小学校、霧丘中学校、小倉東高校、そして旦過にあります代々木ゼミナール小倉校で有意義な一年を過ごしまして、大阪外国語大学で韓国語を専攻し、その後、スポーツに関する原稿をよく書かせていただいていたしまして、ギラヴァンツ北九州についても幾度か原稿を書かせていただきました。「Number」という雑誌に、三浦泰年監督在籍時に長いノンフィクションを書かせていただき、そしてウェブの原稿では二度ほど、(Yahoo! JAPANの) トップページにギラヴァンツの話題を載せたことがあります。

自己紹介はこれぐらいにして、最近起きた出来事を、ざっくりとお話しさせていただこうかなと思います。先日、日本代表が参加した東アジアカップをご覧になられた方はいらっしゃいますか？ちょっと手を挙げていただけますか？[ステージを降り、フロアへ移動。] 柳井先生、どんな感想をお持ちになりました？

■北九州市立大学副学長・都市政策研究所長 柳井 雅人：

一言で言うと「ふがいない」ということでしょうか。もっと若い力を必要としているのではないのでしょうか。

■ジャーナリスト 吉崎 エイジーニョ 氏：

ありがとうございます。平均年齢は何歳か忘れちゃいましたが、僕はその現場に取材に行っておりました。実は日本代表を全く追わず、Number Web という媒体から「北朝鮮代表について書いてください」というリクエストを受けていました。

僕は大学で韓国語を専攻したので、彼ら、彼女ら（北朝鮮代表男子チーム、女子チーム）と話せるということで、大会を通してずっと取材をしていたのですが、どうも彼ら、彼女らが全くコ

メントに応じてくれないのです。取材エリアで話しかけても、皆、素通りして行ってしまうのです。「ああ、これは原稿を書けない。どうしよう」と思って落ち込んでいた大会最終日。女子の試合で最終日に、なでしこ（日本代表）と中国が女子の最後の試合として行われていた時、その前に行われた韓国 vs 北朝鮮の女子の試合を終えた北朝鮮代表が表彰式のためにスタジアムに残っていたのです。日中戦は中国の記者が机の有る記者席にたくさん入ってきていたので、僕の席がなく、机の無い席に座らざるを得なくて座っていたら、なんと、後ろにノースコリアンガールが座ってきました。真後ろに。僕は、彼女達がひそひそ小声で話しているのを、多少聞いちゃいました。それで原稿を書かせていただいたところ、この原稿が Yahoo! JAPAN のトップページに掲載されたという、喜ばしい出来事がありました。いつか、どこかからお叱りがくるのではないかと、今、ビクビクしております。僕がどこかで激しく怒られておりましたら、僕が堂々とやった事をこのシンポジウムで発表していたと、皆さんに証言していただければと思っております。

趣旨と関係ないことですが、ついでに一つ。私は最近、北九州関連の本を出しました。サッカーとは大きく主旨の違う、「学級崩壊立て直し請負人 菊池省三、最後の教室」という教育関連の本です。北九州市で学級崩壊を立て直し続けてきた、小倉中央小学校にいらっしゃいました菊池省三先生という方がおられ、その先生に関するドキュメントを 2 年間かけて取材したものを、今年の 8 月 9 日に発売いたしました。どうぞ是非皆さん、1 冊よろしくお願ひします。



写真 6 吉崎エイジーニョ氏によるプレゼンテーション

全く趣旨と関係ない方向に向かってしまいました。いよいよ本論です。僕がスタジアムに期待することを申し上げます。

僕は今年 5 月 30 日に、鳥栖のベストアメニスタジアムで実際にプレーをする機会がありました。J 1 のサガン鳥栖 vs 浦和レッズの前座試合です。つまり J リーグの公式戦開催日に、試合の 1 時間前くらいに行われた前座試合でプレーしたというわけで、つまり J リーグのピッチに立ったと同じことですね、これ、自慢話です（笑）。メンバーは J リーガーや、ナオト・インティライミさん、スキマスイッチのピアノの方とかがいらっしゃいました。もう一つ自慢話をする、僕の声がナオト・インティライミさんに褒められちゃいました。その時、北九州スタジアムに関する事で、すごく大きく感じるがありました。「ピッチからスタンドがどう見えるのか」に

ついてです。皆さんも僕も普段はスタンドからピッチを見ることしかしませんが、ピッチから見たスタンドがどのように見えるのかということ、僕は検証しまくって、しつこく調べまくって「Yahoo!ニュース：個人」という媒体に原稿を書きました。

スキマスイッチのピアノの方のチームでのJリーグの前座試合に、僕は4試合出させていただく中で、本城と同じ形態の陸上競技場のトラック付きスタジアムと、サッカー専用のスタジアムの双方でプレーをする経験を得ました。(画面を用いながら)この2枚の写真を見ていただけますか。上側が陸上競技場の山梨中銀スタジアムです。ちょうどセンターサークルの手前あたりから、人間の肉眼に最も近いといわれる50ミリのレンズで撮影してみた写真です。このような画が見えます。下側が鳥栖のベストアメニティスタジアムの画です。何が違うでしょう。

#### ■客席の参加者：

ベストアメニティスタジアムはスタンドがかなり大きく見えます。山のよう。

#### ■ジャーナリスト 吉崎 エイジーニョ 氏：

そう、そうなのです。正解があっさり出てしまいました。上下2枚の写真は、ほぼ同じ角度から同じレンズで撮影したのですが、下側の写真の右の方にはスタンドが入っています。

試合中の選手は試合に集中すると、走っているし、ボールを追う、相手のマークする選手を追う、ということで、意外とピッチの中だけに意識が集中して、スタンドまで意識が届かないという現象が起きます。元「ほぼJリーガー」として経験したところによると。ただし、陸上競技のトラックが無ければ、常に試合をしながらも、これだけ近くに、スタンドが常に視界の中に入ってくるのです。特に右上の屋根を見ていただきたいのですが、屋根が右上の方に常にあるのです。屋根が目に入るということは、その先にスタンドがあるだろうという意識になります。すると、僕はこういう場所でプレーしているだけでもかなりビビっているのですが、「スタンド見まい、見まい、見まい」と思ってプレーしているのに、鳥栖のベストアメニティスタジアムでは、もう「どうせ見られているのだから、やりたいことをやろう」とプレーし、だいぶボールを取られたのですが(笑)。この2つのスタジアムには、それぐらいの大きな違いがあるというわけです。

つまり、あくまでサッカー好きの視点にはなってしまいますが、「サッカー専用で造っておく」ということは、非常に価値のあることだろうと思います。専用で造っておくことが、より新しいエンターテインメントを生んでいくのではないかと、ということ、僕は身を持って経験しました。

新しい北九州スタジアムは、鳥栖のベストアメニティスタジアムと非常に共通が多い「イングランド型」のスタジアムです。一つのピッチに対して四方にスタンドが別れているのをイングランド型スタジアムと言います。結局何が言いたいかというと、やっぱりサッカー専用で造っていくということは非常に価値のあることだと思えます。

非常に長い自己紹介になりましたが、ありがとうございました。

#### ■北九州市立大学都市政策研究所 准教授 南 博：

ありがとうございました。それでは久間さん、お願いします。

■日本政策投資銀行 地域企画部課長 久間 敬介 氏：

久間敬介と申します。なぜ銀行員がここに出てきているのか、と思われる方もおられると思いますので、簡単に組織の自己紹介させていただきます。日本政策投資銀行は政府 100%出資の銀行で、投資をしたり融資をしたりしていますが、それ以外にも「知恵出し」をしる、ということで、地域活性化に関することなど色々なことを調べて発表したり提言したりしています。そんな中で、私は元々、宗像市の出身ということもあり、また 2010 年から 3 年間、福岡の九州支店にいて九州経済のリサーチをするポストにいた時に、このスタジアムを造る審議をするための委員（注：北九州市公共事業評価委員会委員）をさせていただきました。

そのご縁もあり、また、今は東京の本店にいて、現在、地方創生が話題になっていますが、地域活性化などについて調べたり提言したりする部署にいたりすることもあり、今回少しお話しをさせていただく機会を得たという経緯でございます。

また後ほど色々お話しさせていただこうと思うのですが、まず期待することについてです。当初造る時の審議でも申し上げていたのですが、当時、市制 50 周年が話題になっていました。ガラヴァンツという地元チームがあり、そして旧五市合併から 50 年経ったところでスタジアムを造るという時に、「北九州市を一つにするようなシンボル」としてぜひ活かして欲しい、ということです。せっかく造るのであれば、北九州市の統一のシンボルとして是非活用してもらって、皆さんに「北九州市は一つ」という意識を持ってほしいと申し上げたいです。

まずは自己紹介ということで、よろしくお願いします。



写真 7 吉崎エイジーニョ氏、久間敬介氏

■北九州市立大学都市政策研究所 准教授 南 博：

ありがとうございました。一点だけ補足させていただきます。今、久間さんの方からスタジアムの審議に関わったというお話がありましたが、久間さんは市の公共事業評価委員会の委員でいらっしゃる。それは「スタジアムを造る」ということを前提としたものではなく、造るか造らないかを公平な視点から審議する立場でお関わりになった、ということです。ちなみに私の方は、「スタジアムを造りたい」、「造るのであればこういうスタジアムにすべきだ」という、全く

別の会議、事務局の組織も違う会議の方で議論をしております、そこでの検討結果などを公共事業評価委員会の方で存分に叩いていただいたということになります。

■北九州市立大学都市政策研究所 准教授 南 博：

それでは二順目に入ります。今、それぞれのお立場から北九州スタジアムに期待することのお話をいただきましたが、今後、スタジアムを活用するにあたっての課題や、その課題を解決するために取るべき方策といったことについて、残り 30 分弱で、急ぎ足でまとめていきたいと思えます。まず、禰さんからお願いします。

■小倉中央商業連合会 南北連携部会長 禰 峰晴 氏

今、色々とお話しただいて思ったことは、やはりあのスタジアムで何が行われるのか、それを（小倉駅）南口側の人間が知らないというのが一番いけないのかな、と思っております。今後どのような形でこのスタジアムが運営されていくかは、今から創っていくものだと思いますが、やはりこの北九州市内すべてで情報の共有化が行われなるといけない、と思っております。

恥ずかしながら、商店街で過去にこのようなお話がありました。「隣の商店街でイベントやっているけど、あれは何？」と聞かれても答えられない方がいらっしやいました。そのような形でやっていると、せっかくできたスタジアムが陳腐なものになっていくと思います。どんな素晴らしいイベントをしても、また、ギラヴァンツさんが J1 に上がったとしても、きっと寂しいものになってくるのではないのでしょうか。個々の情報の共有化をしていながら、また今後、新幹線口の皆様とお話ししていき、そしてまず一つずつ何ができるかが重要です。

まちなかスタジアム、新幹線駅から一番近いスタジアムと言われており「来やすいイメージ」がありますけれど、逆に言えば「帰りやすいイメージ」もあります。まず小倉の街に降り立って、スタジアムに行った後に、北口でも南口でも構いません、小倉の街で時間を過ごしていただく。そういう状態になることを、今後考えていかないといけないのかなと思います。

私たち南口の商業者だけでは考えられないことも多々あると思います。色々な方のご意見をいただきながら、どのような形でおもてなしの心でやっていけるか。もちろんギラヴァンツさんも巻き込んで、スタジアムの皆さんも巻き込んで、お知恵のある皆さんを巻き込んで、どんどん考えていかないといけないと思います。これは大きな課題であり、このスタジアムを活用していく上で、とても大切なことだと思います。

そしてスタジアムについては、子どもが目標とし、夢が持てるような場所にしたいです。私の子どももサッカーをしています。今までは本城陸上競技場の横にサブグラウンドがあったので、そのサブグラウンドで試合した後にギラヴァンツの試合を観るのをとても楽しみに、年に 1 回、所属団体がイベントをやっていました。新しいスタジアムにはそのようなサブグラウンドが無いのですが、それをどうにか克服してやっていき、本当にサッカーを楽しんでいる子ども達がギラヴァンツさんの試合を観に行きたいという形でギラヴァンツさんが盛り上がり上げていただいて、そしてそれを市民の皆さんで後押ししてやっていく。そして色々な所から人が来る。

鳥栖は他県から来場された方に「とても優しい街だ」とご意見をいただいているそうです。そのような街に北九州も変えていきたいな、と思っております。以上です。

■北九州市立大学都市政策研究所 准教授 南 博：

ありがとうございます。非常に重要なキーワードを何点かご指摘いただいたかと思います。特に情報の共有というのは、非常に重要な点ではないかと思います。その意味では、新幹線口地区振興連絡会さんと今後連携を深めていただく、ということになるかと思いますが、竹之内さん、こうした点につきましては、いかがでございましょうか。

■小倉駅新幹線口地区振興連絡会会員 竹之内 豊文 氏 (リーガロイヤルホテル小倉 支配人 営業部長)

先ほど、スタジアムに期待することとして「皆が集まりたくなる場所」ということを申しましたが、この会場にいらっしゃる方や、元々サッカーが好きな人はいずれにせよ集まると思うのです。本城に行っている方は、これだけ便利な場所になったら必ず集まるでしょう。私も本城に行っているのですが、正直ちょっと遠いな、ちょっとアクセス悪いな、ということで、行けなかった時もあります。私も高校くらいからサッカーをやっていました。しかし就職してからはなかなか自分でサッカーをする機会がない状況です。こういう方はたくさんいらっしゃると思います。こういう方は、その時の状況によって観戦に行ったり行かなかったりと思いますが、今度、小倉駅の近くにスタジアムができれば、「行こうかな」と思いやすくなると思います。

大事なのは、全くサッカーに興味がない方。こういう方をいかにスタジアムに呼び込むかというのが、今後の課題かなと思います。サッカーに関心の無い方も日本代表の試合はすごく盛り上がるということは、皆さんも周りの反応からわかっておられると思います。チームが強くなれば、関心が有る方も増えてくるというのも、よくわかっていることです。実際、日本代表が来たとなったら皆行くでしょう。そういうことはなかなか難しいのですが、ギラヴァンツがJ1に上がる試合であったり、J1に実際に上がって試合をしたりする時は集まってくるでしょう。

けれど、チームが強くなるというのは、我々の思いだけでは多分ならなくて、きっと補強のためのお金とか色々な面で大変だということも、ギラヴァンツの関係者の方からも聞いています。つまり、弱くても、…これだけのスタジアムができたらず必ず強くなるとは思いますが、応援をしつつ、実際に行って楽しい場所、快適な場所にスタジアムがなることが大事かなと思います。

それともう一つ、先ほど禰さんが「情報の共有」とおっしゃりましたが、「スタジアムで何をやっているか」ということには、かなりプロモーションをかけた方がいいと思います。実際、今でもギラヴァンツは子どもたちへのスクールや、大人に対するイベントもしているし、色々な行事に参加しているということは、ホームページなどを見るとわかるのですが、なかなかサッカーに興味がない方まで浸透させるのは難しいと思います。マスメディアを使いながら紹介していくのが今後の課題でしょう。実際にはお金がかかる話なので簡単にいかないのですが、そういった点については、どんどん我々ができるところは後押ししていこうと考えています。

チームが強くなるのは非常に簡単ではなく、我々の思いだけではならないので、それ以外のところで、できるところからやっていくのが大事かなと思っております。まず北九州スタジアムは非常に便利なアクセスという特長があるので、これをどれぐらい広められるかが重要でしょう。事あるごとに、この点を皆さんで言っていく事だと思います。それから、子ども達が来やすい場所ということもアピールすべきでしょう。実際に公園もできますし、色々な展示とかも行って、家族が集まれる感じになる予定ですので、こういう点をどんどんアピールすべきでしょう。

それから、これは私がホテルに勤めているというのもあるのですが、実際にこちらに来る人で必ず考えるのは食事です。「何にするか」、「スタジアムで食べようか」、「スタジアムに来る前に食べようか、試合が終わった後で食べようか」、ということ必ず考えると思いますので、こうした点に関する情報発信を、具体的にスタジアムに掲示する。「この時間からだと、こういうところが空いている」とかです。小倉駅新幹線口の店舗は、ホテルだけではなくたくさん店舗がありますが、そうした情報を具体的に出していくことが考えられると思います。

また、「スタジアムに来るよりも、テレビの方が観やすい」ということが無いようにしたいと考えています。スタジアムに来た人だけが味わえる特典とかを具体的に考える必要があると思っています。来場者特典や抽選会はどこでもやっていますので、もっともっとコアな、例えば戦術についての詳しい説明がスタジアムであるとか、難しいかもしれませんが、試合前に戦術を言うわけにいかないでしょうから、試合が終わった後に戦術についての説明があつたりすると、サッカーマニアの方には魅力的かな、といったことも考えています。

もう一つは、お金がかかることなのですが、小倉駅から完全に雨に濡れないで行けると、もっとも快適かなと思います。とにかくサッカーに興味がない人でも「行ってもいいかな」と思えるスタジアムになれば最高かなと思います。あと少しの距離なのですが、駅から濡れずに行けるように、これはスタジアム建設後に話し合われたらいいかなと思いますが、駅を降りて傘をささずにスタジアムまで行けると非常に話題になるかなと思います。全国的にも一番良いスタジアムになって、吉崎さんにも記事を書いていただけるかな、と思います。

私が今考えているのは、このようなことです。

■北九州市立大学都市政策研究所 准教授 南 博：

ありがとうございました。サッカーをやっておられたという視点も含め、新幹線口で事業を展開しておられるお立場からお話をいただきました。

すみません、竹之内さんに一点だけお尋ねしますが、サッカーに特化したお話だったかと思いますが、それ以外の面では例えばどういったようなことをお考えでしょうか。新幹線口地区振興連絡会というよりも、リーガロイヤルホテルさんとしてのお立場で結構ですので。

■小倉駅新幹線口地区振興連絡会会員 竹之内 豊文 氏（リーガロイヤルホテル小倉 支配人 営業部長）

ホテルとしては、ギラヴァンツさんが今はあまりやっておられないかもしれませんが「LINEの特典で画面を見せてくれたら半額」という企画をやっていました。当初は「どうかな？」と思っていたら、大変多くのお客さんが来られたのです。やはり、そういったプロモーションや、半券を持ってきた方に割引といったことができると思います。

人が集まれば、そのうちの1%か2%は必ずホテルに来る人も出てくるので、やはりスタジアムに何人集めることができるかが大事だと思っています。

■北九州市立大学都市政策研究所 准教授 南 博：

ありがとうございます。それでは野瀬さんお願いします。



写真8 南博准教授、野瀬瑠美氏

■北九州市立大学 地域創生学群 3年 野瀬 瑠美：

私は先ほど、「スタジアムに期待すること」として、「北九州人の市民の庭になるといいな」と申し上げたのですが、というのも、北九州のスタジアムが北九州市で活かされるためには、まず市民が「自分のもの」「自分事」としてスタジアムを捉えて、あとは「日常生活の一部にそのスタジアムが組み込まれる」という二点がすごく大きなキーワードではないかと思ったので、「庭」と例えました。

今回のこの登壇のお話を、大変恐縮ながらいただいた時に正直最初に思ったのが、「えっ？スタジアムについて私が話すの？」ということでした。先ほど竹之内さんがおっしゃったみたいに、私はどちらかというと日本代表の試合とか、なでしことか、ワールドカップのような試合は家でテレビをつけてすごく応援するのですが、正直、ギラヴァンツ北九州やJ1、J2のチームには興味がなくて、「スタジアム＝サッカーをする場所。だからあまり関係ないかな」というような、ちょっと他人事の意識がありました。

ですが、スタジアムという建物を考えた時に、「すごくポテンシャルがあるな」と思いました。屋根はあるし、芝生は緑だし、客席は雛壇みたいだし、施設的にはすごいなと思い、このままではもったいないのではないかな、と思いました。会場の皆さんのようにサッカーやスタジアムに興味や関心がある人ではない、私みたいな市民が多分多い北九州市という街だと思うので、すごくもったいないなと思いました。

そこで、私が具体的に必要だと思う要素は、一つは「自分達で創った感」、二つ目が「大中小のイベント開催」という二点があるかなと思います。

「自分達が創った感」というのは、スタジアムとかについて私もよく思うのですが、誰かが造ったものがドーンと急に現われるので、あまり自分事に捉えられない部分があります。なので、例えばスタジアムの建設で、最後の壁の一面を未完成のまま置いておき、一大イベントで市民を何百人も集めて、例えば壁の色を塗るとか、手形をつけるとか、何かしら「あ、自分が創ったんだ、自分の物なんだ」というような形の、参加感のあるスタジアムにすると、スタジアムをすご

く一気に身近に感じて、距離的に遠い八幡や若松に住んでいる人も、「あその壁は自分が塗ったんだよ」とか思えるようになるのではないかなと思いました。なので、まだ造っている途中なので、完成した後のことより、造る過程をすごく大切に、そこを活かしていくことがすごく面白いのではないかな、と個人的には思います。

「大中小のイベント開催」については、今は時間がないので少し短く述べますが、例えば今、大学生の間でもパブリックビューイングがすごく流行っていて、クラブとかスポーツバーとかに行くと全国的な試合がある時は応援をしています。北九州スタジアムでパブリックビューイングをたくさんの人を集めて行って、市民が一体感を持てると面白いなと思います。以上です。

#### ■北九州市立大学都市政策研究所 准教授 南 博：

ありがとうございました。では、すみませんが吉崎さん、今回は少し手短にお願いします。

#### ■ジャーナリスト 吉崎 エイジーニョ 氏：

はい。ストップウォッチを持ってきています。僕に3分時間を下さい。これは予定調和ではございません。南先生にも打ち合わせをしております。

僕は、今からここでプレゼンテーションしたいと思います。というのは、この登壇されているお三方に出資をしていただきたい企画について、僕は今からここでプレゼンテーションをします。ので、良かったら3分後に盛大な拍手をいただき、そして投資を促すという、そういう流れにしていだければと思っております。

(画面を用いながら説明) はい、今、僕は2017年の新しいスタジアムの誕生に向け、企画を動かしております。これはウェブの企画です。ギラヴァンツ北九州に関する、そして北九州市に関するサイトを作ろう、情報サイトを作ろうという企画を練っています。

この企画の最も大きな趣旨は、主婦の方、女性の方に向けた、街のショッピング、グルメ、観光情報をそのサイトに集め、その上にギラヴァンツ北九州の情報をドッキングさせてしまおうというものです。つまり、街の情報でお客さまに集まっていたいて、そこにギラヴァンツの試合の情報、選手の情報がたくさん集まっているサイトで、街の活性化を図ろうじゃないかと思っています。

特に僕が今回プレゼンテーションしたいのは、ギラヴァンツ関連ニュース、これは「キュレーション」という、他サイトから取ることでできる情報を上げていこうかと思っているのですが、オリジナルの情報もいくつか、ギラヴァンツにも取材をさせていただこうと思っています。これは正に女性を意識しまくった情報で、「細マッチョの選手がめっちゃ揃っていますよ」みたいな情報をバーツと出していきます。あとは、選手の思いを細かくノンフィクションとして書いていくとも考えています。

これについて僕は、先日JリーグのNo.2の方とランチをする機会にこの企画をプレゼンしました。「ぜひ、上半身を脱いでいただいた写真を撮って有料で販売したい」みたいなことを言いますと、「それは聞いていなかった事にしよう」とおっしゃられました。

で、こういった企画をやりながらも、要は、北九州の旧五市の情報が上手く行き交うようにと思っています。僕が北九州を離れてもう20年以上経っているので、ちょっとリアリティがないのかもしれませんが、例えば、小倉南区のものすごく美味しいお好み焼き屋さんを若松の方にご紹

介したいのです。僕は小倉で育ちましたが、実は八幡駅前でトンカツの入ったちゃんぽんが食べられることを最近まで知りませんでした。そういった情報が行き交うような情報サイトに、僕は仮タイトルとして「北九州ユナイテッド」と書いていますが、そうしたサイトを設け、街の情報が行き交いながらも、そこにアウェイのサポーターもアクセスして、ここを見れば北九州の街の情報がわかりますよ、ということで、新スタジアムに向けた盛大な準備をしたいと思っております。

皆さんどうでしょう！ご清聴ありがとうございました。

#### ■北九州市立大学都市政策研究所 准教授 南 博：

ありがとうございます。大きな拍手をいただきました。私ども大学としては、出資はちょっと難しい部分はあるのですが、今、吉崎さんから御提案があったような「事業を興していく」ということはとても重要なことだと考えておりますので、また改めてご相談させてください。

では久間さん、お願いします。

#### ■日本政策投資銀行 地域企画部課長 久間 敬介 氏：

時間もだいぶ迫ってきましたので、手短にお話しします。先ほど申し上げましたとおり、スタジアムの他事例も銀行として調査をしている中で、周りからみた北九州スタジアムの特徴、課題について申し上げたいと思います。

今のスタジアムの流行は、実は北九州スタジアムは最先端を行っています。「まちなか立地であること」、「収益力を改善させていく」、「民間の活力を使う」、それから「多機能複合型」。これが最近検討されているスタジアムの流行です。これらについて北九州スタジアムは、多分最先端を行っていると思うのです。これを活かさない手はありません。

実は、北九州スタジアムはできるだけコストを切り詰めて造っていることもあり、複合型ではなくて単機能となっていますが、これは周りの街と一緒にあって、エリア全体で多機能複合型にしてほしい、と思っています。稼ぐところについては、今ある他の既存のお店や施設と一緒にあって多機能にしてほしい、等です。

まちなかで（スタジアムに年間）20万人が来るような人の流れができますので、これを地域が連携して活用してほしいと思います。「独り占めしない」ということですね。「うちだけにお客を取り込もう」とか考えずに、できれば来場者に街を広くグルグル周ってもらって、時間とお金を消費してもらおう仕組みを作してほしいと思っています。

とは言っても、小倉駅には新幹線口、小倉城口がありますけれども、なかなか線路を越えて人が流れるのは難しいのです。博多駅もそうです。博多口と筑紫口がありますが、やはり機能が分かっていたりして、難しいところがあります。ぜひ小倉では、線路を越えた人の流れを作るような工夫をしてほしいと思います。それができれば、地方都市でもかなりの先進事例になるのではないかと考えています。

最後にもう一つ申し上げたいことがあります。とは言ってもこのスタジアムは単機能ですので、村上建築部長の事業概要説明にもあったように、基本的にずっと年間1億円のコスト投入が前提になっています。これは単機能ゆえの話で、では複合型にして稼げばいいじゃないかとなると、

周りの商店街から客を奪っていいのですか、という話になります。皆様のご理解の上で、「全体として稼ぐ」という意識を持っていただいて、スタジアムについては集客装置としてちゃんと機能していることを念頭に置いてほしいと思います。他の地域では「赤字なのでこんな施設は全然ダメだ」という話になりがちなものですが、そこは是非、全体としての集客、まちづくり、それからぎわいづくりという観点で、皆さんにスタジアムをお考えいただければと思っております。以上です。

■北九州市立大学都市政策研究所 准教授 南 博：

久間さんからのご指摘は、今後、禰さんや竹之内さんが御所属の団体や、あるいは他にも色々なまちづくり関連の団体がございますので、そういった方々を中心にして、ぜひ連携に取り組んでいく必要がある、ということであると思います。私たち市民や大学も、そういった取り組みに積極的に協力をしていくことが必要だと思えます。

また久間さんからのご指摘は、今後、エリアマネジメントという概念をより強く持っていかななくてはならないというご指摘に繋がっていくと思います。北九州スタジアムを、小倉駅新幹線口あるいは小倉城口も含んだエリア全体の重要な拠点としていかに活かしていくかは、今後の私たちの取り組み次第である、と思います。

私が色々なスタジアムに視察に行かせていただいたり、あるいは色々な学会で色々な人に会ったりするたびに、「北九州はまちなかにスタジアムができて、本当に羨ましい。素晴らしい。北九州は色々な苦勞を乗り越えて来られたのだろう」という趣旨のことを、よく話かけられます。他地域から、これはサッカー関係者だけに限らず、色々な観点から非常に注目されているのが北九州スタジアムであります。従って、これをぜひ成功させるように、私たち地域が一体となって取り組んでいきたいと考えております。

ちょうど定刻となりました。本来であればフロアの皆様方からご意見等をいただくべきところですが、本日は時間の都合上、割愛をさせていただきます。お手元のアンケートの中に、スタジアムを活かしたまちづくりに関するご意見等を記入いただく形になっておりますので、本日この後ご記入いただくか、あるいは、今週いっぱいくらいに FAX か電子メールでお送りいただければと考えております。

それでは以上をもちまして、「北九州スタジアムを拠点とした魅力あるまちづくりシンポジウム」のパネルディスカッションを終了させていただきます。最後までご参加いただきまして、どうもありがとうございました。

■司会：

パネリストの皆様方ありがとうございました。皆様、大きな拍手をお願いいたします。

これをもちまして「北九州スタジアムを拠点とした魅力あるまちづくりシンポジウム」を終了いたします。ご参加いただきまして誠にありがとうございました。

そしてこのあと夕方5時からは、この会場におきまして「ギラヴァンツ北九州ファン感謝祭 2015」が開催されます。引き続き



写真9 上田恵子氏（司会）

き、ぜひご参加ください。

なお、席を立たれる際は、お手荷物を持ってご移動いただきますようによろしくお願いいたします。そしてお配りしておりますアンケートにつきましては、会場出口で係の者が回収させていただきます。皆様、アンケートへのご協力どうぞよろしくお願いいたします。

本日はご参加ありがとうございました。

(写真提供： 上田 真之介 氏)

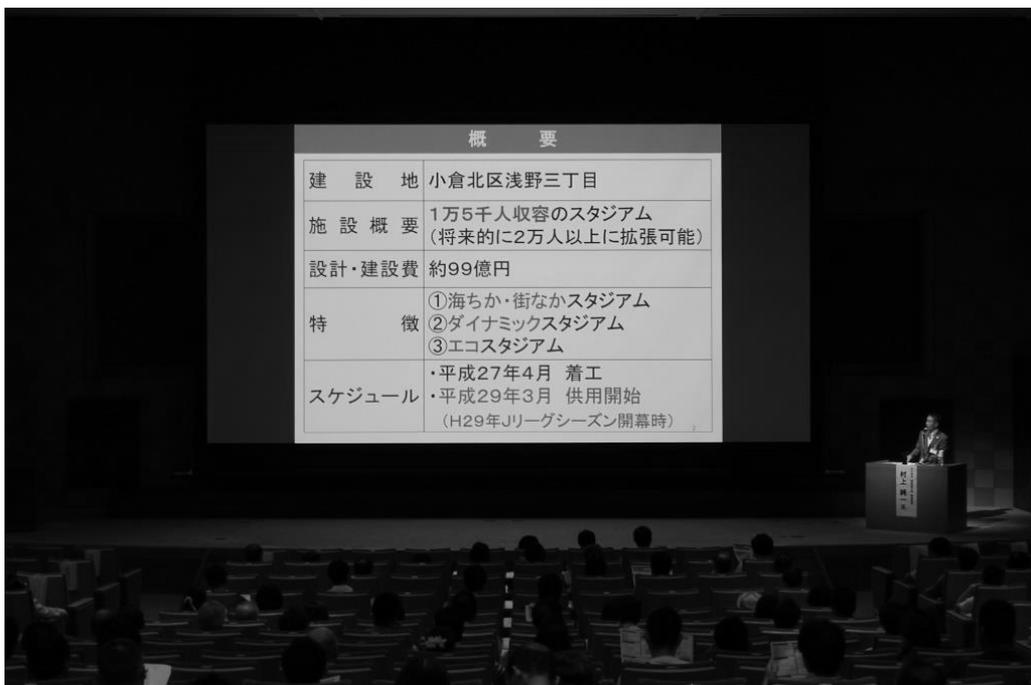


写真 10 北九州スタジアム事業概要説明の様子



写真 11 パネルディスカッション壇上の様子

# 北九州スタジアムを拠点とした 魅力あるまちづくりシンポジウム



2015年 **8月16日**(日)

**15:30~17:00**

**北九州国際会議場  
メインホール**

(北九州市小倉北区浅野 3-9-30)

※ シンポジウム終了後(17:00~18:00)、「ギラヴァンツ北九州ファン感謝祭」開催

JR小倉駅新幹線口そばに建設中の北九州スタジアム(2017年供用開始)は、多様な用途での活用によって市内外から多くの人々が集まり、北九州のまちに「にぎわいと活力」をもたらすことが期待されています。一方、スタジアムがその機能を存分に発揮するためには、私たち市民、企業・団体、行政など地域が一体となって様々な取り組みを行っていくことが必要になります。

こうしたことから、北九州スタジアムを拠点として北九州市がますます「魅力あるまち」となるよう、スタジアムへの期待や課題、今後のまちづくりにおいて取り組むべき方策等について議論を深めることを目的として、シンポジウムを開催します。

■主催：北九州市立大学 都市政策研究所

■共催：北九州市 ■後援：北九州商工会議所、北九州スタジアム応援団、(株)ウインドシップ北九州

■定員：500人(お申し込み不要。当日先着順) ※入場無料

■概要：

15:30 開会(開場 15:00)

15:30~15:45 **北九州スタジアム事業概要説明**

講師：北九州市建築都市局 建築部長 村上 純一 氏

15:45~16:50 **パネルディスカッション「北九州スタジアムを拠点とした魅力あるまちづくり」**

パネリスト：小倉中央商業連合会 南北連携部会長 禰 峰晴 氏

(順不同) 小倉駅新幹線口地区振興連絡会 竹之内 豊文 氏(リーガロイヤルホテル小倉 支配人 営業部長)

日本政策投資銀行 地域企画部課長 久間 敬介 氏

ジャーナリスト 吉崎 エイジューニョ 氏

北九州市立大学 地域創生学群3年 野瀬 瑠美

コーディネータ：北九州市立大学 都市政策研究所准教授 南 博

16:50 閉会

※17:00~18:00 **ギラヴァンツ北九州ファン感謝祭**(北九州国際会議場メインホール、イベントホール)

主催：(株)ギラヴァンツ北九州 共催：ギラヴァンツ北九州を支援する市民会議

**シンポジウム  
お問い合わせ**

北九州市立大学 都市政策研究所 事務室

メール：toshiken@kitakyu-u.ac.jp 電話：093-964-4302(平日8:30~17:00)

※「ギラヴァンツ北九州ファン感謝祭」につきましては、(株)ギラヴァンツ北九州(電話 093-863-6777)にお問い合わせください。

図1 シンポジウムのチラシ

---

---

北九州市立大学 地域戦略研究所  
2015年度 地域課題研究

北九州における集客イベントの効果と展望  
(2)

2016年3月31日発行

発行 公立大学法人 北九州市立大学  
地域戦略研究所  
〒802-8577 北九州市小倉南区北方4丁目2-1  
TEL 093-964-4302  
FAX 093-964-4300  
E-mail [chiikiken@kitakyu-u.ac.jp](mailto:chiikiken@kitakyu-u.ac.jp)

---

---

